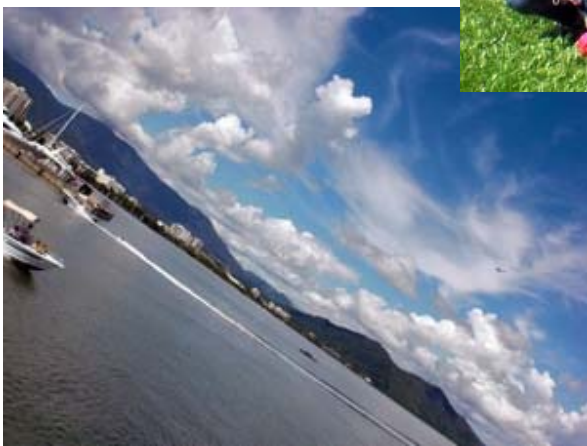


平成 22 年度大仙市立中学校生徒海外派遣事業

# オーストラリア研修 報告書



平成23年1月3日(月)~1月10日(月)

# ご日程表

株式会社 JTB東北

横手支店

TEL: 0182-33-4933

FAX: 0182-33-5899

支店長: 高橋 義孝

取扱管理者: 鈴木 浩文

担当者: 山本 洋生

作成日: 2010年12月15日

## 大仙市立中学校生徒海外派遣 様

日程: 平成23年1月3日(月) ~ 平成23年1月10日(月)

参加生徒20名様

日次	月日(曜)	都市	現地時間	交通手段	スケジュール【宿泊先】	朝食	昼食	夕食
1	1/3 (月)	大仙市役所 発 仙台空港 着 仙台空港 発 グアム空港 着 グアム空港 発	07:00 10:30 11:55 16:45 19:55	専用車 航空機 航空機	<b>集合 06:30 大仙市役所入口ホール</b> 専用車にて仙台空港へ※上着はバスに置いていきます。 チェックイン (帰りのバスにまた積んでいきます) 出国手続後、CO932 便にてグアムへ(所要 3:45) 出発時間まで空港内にてフリータイム。 CO902 便にてケアンズへ(所要 4:40)	×	機内	機内
2	1/4 (火)	ケアンズ空港 着 ケアンズ空港 発 マソカ リフォールズ	00:35 01:30 03:00 11:00 12:00 13:30	専用車 ホストファミリー	入国手続後、マンガリーへ移動。 レインフォレストロッジにて、睡眠・休憩。 昼食 オリエンテーション(心構え、マナーの徹底) ホストファミリー面会(6家庭予定) ファームステイ先へ移動 いよいよ オーストラリアの生の暮らし体験  【ファームステイ泊】	ロッジ	ハンバーガー	ステイ先
3	1/5 (水)	マソカ リフォールズ	終 日		<b>ホストファミリーと過ごす1日</b> ファームの仕事を一緒に手伝い、家族と共に過ごしていただきます  【ファームステイ泊】	ステイ先	ステイ先	ステイ先
4	1/6 (木)	マソカ リフォールズ	終 日		<b>ホストファミリーと過ごす1日</b> ファームの仕事を一緒に手伝い、家族と共に過ごしていただきます  【ファームステイ泊】	ステイ先	ステイ先	ステイ先
5	1/7 (金)	マソカ リフォールズ	09:00 10:00	ホストファミリー	各ファームステイ先よりマンガリーに集合 午前:ファームステイ報告会 午後:現地学生(オージーキッズ)との交流 アーチェリー・ランドスライド・チームラフトビルド・障害物競争・キャンプファイヤーなど  【レインフォレストロッジ泊】	ステイ先	ロッジ	ロッジ
6	1/8 (土)	マソカ リフォールズ	06:30 07:45	専用車	朝食 ロッジを出発 <b>エクスカーション ~グリーン島~</b> さんごの島にて海水浴やマリンスポーツを体験。  ケアンズ市内のホテルへ  【コロニアルクラブリゾート泊】	ロッジ	グリーン島	ホテル
7	1/9 (日)	ケアンズ	09:00	専用車	<b>エクスカーション ~キュランダ渓谷~</b> 渓谷を走るキュランダ鉄道に乗りケアンズの自然を体感致します。 ※キュランダ村散策時、各自昼食 夕刻、ケアンズ市内散策  空港チェックイン 【機中泊】	ホテル	×	×
8	1/10 (月)	ケアンズ空港 着 ケアンズ空港 発 グアム空港 着 グアム空港 発 仙台空港 着 仙台空港 発 大仙市役所 着	22:00 01:30 06:00 08:00 10:55 13:00 16:00	航空機 航空機 航空機 専用車	出国手続後、CO903 便にてグアムへ(所要 4:30) 出発時間まで空港内にてフリータイム。 CO931 便にて仙台空港へ(所要 4:00) 入国手続後、貸切バスにて秋田へ ※途中のSAにて昼食(各自) 無事到着、お疲れ様でした。	機内	×	×

平成22年度大仙市中学校生徒海外派遣事業派遣生徒一覧

No.	中学校名	学年	生徒氏名	性別	No.	中学校名	学年	生徒氏名	性別
1	大曲	2	伊藤汐音	女	11	中仙	2	佐々木公佳	女
2	大曲	2	葛西菜央	女	12	中仙	2	高橋幸代	女
3	大曲	2	木村朋子	女	13	豊成	2	阿部なな子	女
4	大曲	2	佐藤あかり	女	14	協和	2	小田嶋美和	女
5	大曲	2	富樫幸恵	女	15	協和	2	佐川志帆	女
6	大曲	2	西村友香	女	16	協和	2	照井美美佳	女
7	平和	2	小林凜乃	女	17	仙北	2	伊藤梨紗	女
8	西仙北東	2	伊藤昭人	男	18	仙北	2	高橋亜里沙	女
9	西仙北東	2	進藤亜矢子	女	19	仙北	2	町田沙南	女
10	西仙北西	2	加藤康平	男	20	太田	2	田口ありさ	女



## 事前説明会

10月4日(月) PM 6:00~ ・派遣生等紹介 ・学校教育課長より ・パスポート取得、旅行準備について(JTB) ※ <u>海外旅行お伺い書(パスポートコピー貼付け)の提出</u> 大仙市役所:申請から取得まで、土・日を除いて9日間かかります。 ※ <u>Homestay Application Form(ホームステイ申込書)の提出</u>  ・今後の予定について(教育研究所)	場所:大曲図書館3F 視聴覚室
12月17日(金) PM 6:00~  ・ファームステイおよび日程についての最終確認、外貨両替について等(JTB) ・緊急連絡先記入/提出(教育研究所)	場所:大曲図書館3F 視聴覚室

## 事前学習会

10月27日(水) 第1回学習会 PM 4:00~5:30 ・CIRによるオーストラリアの文化紹介 ・自主研究テーマの設定 その他	場所:大曲図書館3F 視聴覚室
11月29日(月) 第2回学習会 PM 4:00~5:30 ・自主研究テーマの提出(面接により、自主研究テーマを広げる・深める) ・英会話レッスン(自己紹介・飛行機の中で・税関にて・ショッピングしよう・ホテルにて) ・出入国カードの記入について	場所:大曲図書館3F 視聴覚室
12月28日(火) 第3回学習会(結団式) AM 9:30~11:30 ・ホームステイグループごとの日本文化紹介準備活動 ・作成レポートについて(様式、枚数、締め切りなど) ・報告会について ・結団式	場所:大曲図書館3F 視聴覚室

## オーストラリア海外研修

1月3日(月)~1月10日(月)	場所:オーストラリア ケアンズ
------------------	--------------------

## 解団式・報告会

2月14日(月) 解団式および報告会 PM 3:00~4:30 ・代表者感想発表 ・3グループに分かれての、グループ内個人発表	場所:仙北ふれあい 文化センター
---	---------------------

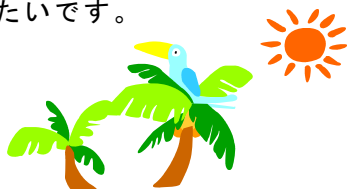
## 結団式

### 派遣生徒代表誓いの言葉

楽しみにしていたオーストラリアへの出発が近づいてきました。

私は、第一に感謝の気持ちを忘れずに、8日間頑張ってきたと思います。この海外派遣に参加することになり、家族や先生方、旅行会社の方などに手伝ってもらいながら準備をしてきました。また、私たちを受け入れてくださるオーストラリアのホストファミリーの方々も準備をして、私たちを待っていてくださると思います。そのようなたくさんの人たちのおかげで、私たちは出発することができるのだと思います。そのことは本当に恵まれた、ありがたいことだと感じています。

私には、外国の人と自由に会話ができるようになりたいという希望があります。まだまだ自分の言いたいことを伝えるのは大変だと思いますが、感謝の気持ちを忘れず、この場で出会えた友達と協力し、勇気を出して積極的にコミュニケーションをとって、学んできたいと思います。英語や現地の人たちとの交流など、いろいろなことにチャレンジしていきたいです。



大曲中学校 木村 朋子

6年前のことです。私が小学校2年生だったとき、私の母といとこの亜弥子さんが、オーストラリア研修に行ってきました。日本に戻って来ると二人とも「ホームステイや小学生との交流がとても楽しかった！」と言っていました。そのときから、私もいつかはオーストラリアに行きたいと思うようになりました。

今年の夏、英語の先生が「オーストラリアに行きたい人はいませんか？」と希望を聞いたときに、私は迷わず「今度は私が絶対行く！」と心に決めました。

今回のオーストラリア研修で特に楽しみにしていることは、ホームステイです。私は初対面の人に自分から進んで話しかけることはあまり得意ではありません。しかし、今回オーストラリアへ行くに当たって、たくさんの人と出会います。そこで、ホームステイ先では、ホストファミリーの皆さんとのコミュニケーションを大事にしたいと考えています。そのためには、自分の意思表示をはっきりしたり、何にでも積極的に取り組んだりしたいと思います。

私は動物が大好きです。ですから、ファームの仕事を体験できることが嬉しいし、今からとても楽しみです。ファームの仕事を一生懸命手伝い、ホストファミリーの皆さんの笑顔を見たいと思っています。

オーストラリアでの8日間が、思い出のたくさん残る充実した日々になるように、そして、今までの自分と少しだけ違った自分になれるように、自分が出来る精一杯の努力をしたいと思います。

参加する他の皆さんと仲良く、元気に研修してきます。



協和中学校 小田嶋 美和

## 平成 2 2 年度海外派遣生自主研究テーマ一覧

No.	中学校名	学年	生徒氏名	性別	自主研究テーマ
1	大 曲	2	伊藤 汐音	女	水を大切にするにはどうしたらいいか？
2	大 曲	2	葛西 菜央	女	日本人の食生活はどうあるべきか？
3	大 曲	2	木村 朋子	女	大仙市を皆が住みやすい街にするにはどうするべきか？
4	大 曲	2	佐藤 あかり	女	自給率を上げることで地域の活性化につなげるにはどうするべきか？
5	大 曲	2	富樫 幸恵	女	中学生の家庭での役割、休日の過ごし方はどうあるべきか？
6	大 曲	2	西村 友香	女	自然や環境を守っていくためにはどうするべきか？
7	平 和	2	小林 凜乃	女	自然を守るにはどうしたらよいのか？
8	西仙北東	2	伊藤 昭人	男	もっと多くの人にスポーツに親んでもらうにはどうするべきか？
9	西仙北東	2	進藤 亜矢子	女	多くの人に環境に対する意識を高めてもらうにはどうするべきか？
10	西仙北西	2	加藤 康平	男	きれいな大仙市にするためにはどうすればいいのか？
11	中 仙	2	佐々木 公佳	女	大仙市がもっと水を大切にしていくにはどうするべきか？
12	中 仙	2	高橋 幸代	女	私たちの食生活をよりよいものにするためにはどうすべきか？
13	豊 成	2	阿部 なな子	女	ごみをリサイクルしやすくするにはどうすればいいか？
14	協 和	2	小田嶋 美和	女	動物も人間も暮らしやすい環境とはどうあるべきか？
15	協 和	2	佐川 志帆	女	自然環境をよりよくするにはどうするべきか？
16	協 和	2	照井 芙美佳	女	自然環境を守るにはどうするべきか？
17	仙 北	2	伊藤 梨紗	女	環境にやさしいごみ処理はどうあるべきか？
18	仙 北	2	高橋 亜里沙	女	日本の自然環境を守るにはどうするべきか？
19	仙 北	2	町田 沙南	女	自然環境を保護するためにはどのような工夫が必要だろうか？
20	太 田	2	田口 ありさ	女	大仙をより美しい街にするにはどうするべきか？

## 事前学習会の様子



違う学校から参加する人たちとも仲良くなれるかな？ちょっとドキドキしながら、積極的にコミュニケーションを図って頑張りました。



レベッカ先生と、オーストラリアの概要について、クイズ形式で学習しました。これから行くところなので、気合いも入ります。



初めて見るオーストラリアの紙幣にもウキウキします。紙幣といってもプラスチックでできていて、日本のお札とは手触りが全く違います。



ALTの先生方と英会話の練習をしました。とても優しく教えてもらい、緊張したけれど、少し自信もつきました。



ALTのダレン先生と、機内で飲み物を頼む練習です。本番さながらに座席を作り、真剣そのもの。



税関の係員に扮したレベッカ先生から、持ち物検査を受けています。「この食べ物は？」「???（こんなの入れた覚えはないんだけど…）」



「どんな家庭にお世話になるのかな？」  
ファームステイごとのグループになり、最後の学習会です。



「おみやげは何を持って行こうか？」  
「どんな日本文化を紹介する？」  
みんなで楽しい相談です。



## 結団式の様子



大曲中学校の木村さん、協和  
中学校の小田嶋さんが、代表  
であいさつをしてくださいました。

教育長の前であいさつをする  
のは、とても緊張します。

他の派遣生徒も、真剣な面持ち  
で話を聞いています。

間もなく研修に出発する実感が  
少しずつ湧いてきました。



教育長の激励を受け、  
大仙市の中学生の代表  
として、よい経験をた  
くさんして来て、皆の  
ために生かそうという  
気持ちも高まります。

# オーストラリアでの研修を終えて

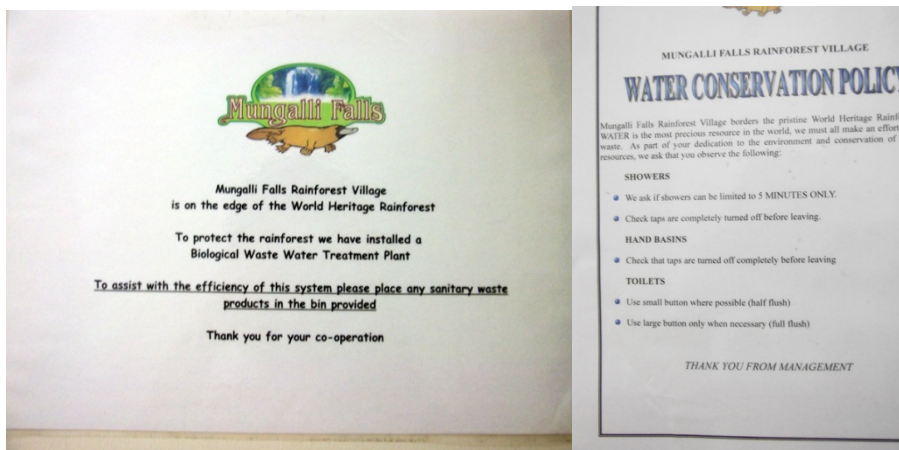
No. 1 大曲中学校 伊藤 汐音

## 第一章

私が通っている大曲中学校では、「REVO（レボ）」活動をしています。R はリサイクル、E はエコ、VO はボランティアを表しています。わたしはそのうちのエコに着目し、

「水を大切にするにはどうしたらいいか」というテーマを立て、この海外派遣事業に臨みました。

私たちは今回、クイーンズランド州にあるケアンズというところに行き、最初にマンガリーフォールズスチューデントヴィレッジ（以下マンガリー）に宿泊しました。私が日本との大きな違いを感じたのは、部屋の中にあった貼り紙に、「シャワーは5分まで」と書かれてあったことです。



上の写真はその貼り紙です。私は日本では浴槽にたっぷりとお湯を張り、だいたい15分ほどゆっくりと湯船につかります。一方オーストラリアではシャワーが一般的で、しかも日本でいうところのカラスの行水のように、慣れるのに時間がかかって大変でした。（また、水やお湯が出るツマミを回す向きが日本と逆だったので、シャワーを浴びていてとても熱かったり、冷たいのに温度調節ができずに水のままシャワーを浴びたりと、シャワー室の中で一人パニックになっていました。）

次に、家で作ってきた水に対する質問をホストファミリー&マンガリーの職員の方にアンケート方式で記入してもらいました。

I heard that shortage of water become the big problem in Australia.

オーストラリアでは、水不足が大きな問題になっていると聞きました。

①In this area, can you be troubled with shortage of water?

この地域でも、水不足で悩むことはありますか？

②Do you have anything to save water in your house?

こちらのお宅では水の節約をしていますか？

Yes の場合

↓

Could you tell me how?

それはどんなことですか？

Thank you.

ご協力ありがとうございました。

①の答えは全員 No でした。もともとケアンズは雨が多く、日本が冬のとき雨季なので、スコールと呼ばれる雨（短い時間に降る大雨）がかなり降っていました。私達が訪れていた頃、同じクイーンズランド州の南の方では大洪水でしたが、ここは大丈夫でした。ただし、オーストラリアは広いので、乾燥や水不足に悩む地域も多いそうです。

②の答えは、マンガリーの職員の方は Yes, ホストファミリーは No でした。そこで、マンガリーの職員の方に、節水術を聞きました。

- ・ 雨水をためて、ろ過して食器を洗うのに使う。（オーストラリアでは生水が飲めません。）
- ・ シャワーは五分まで。

その他にも、ホストファミリーとバーベキューに行ったときに、鉄板が汚れていたのに水で洗う様子が見えなかったので、どうするのだろうと思いました。すると、鉄板を熱してからオリーブオイルを垂らし、ヘラのようなもので汚れをこすり落としていました。水を使えば簡単に済むところなのに、わざわざ水を使わずに努めているところに、オーストラリアの人々の水に対する意識の高さを感じました。

## まとめ

オーストラリアの人は、水に対する意識が日本人よりも高いことがわかりました。普段日本にいと、蛇口をひねればいつでも好きな時に水を飲むことができるし、水はいくらでも

あるような気がしています。でも、限られた量しか水を使えない不便さや、シャワーは思ったよりも水を使うということを知って、水の大切さについて考えさせられました。そこで、私達ができる簡単なことで、節水につながることをホームステイ先の生活も参考にしながらいくつか自分なりに考えてみました。

- ・洗濯物は風呂の残り湯を使って洗う
- ・手を洗っている間・歯磨きをしている間は水を止める
- ・皿を洗う前に汚れを拭き取る
- ・皿洗いをするとき、水を流しっぱなしにしないで一回ごとに水を止める
- ・シャワーの時間を決めて、意識して守るようにする。

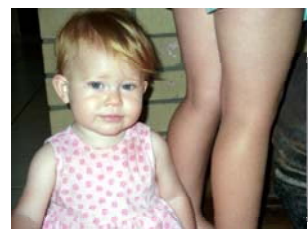
少しのことでも、一人ひとりが意識すれば、水の大切さに対する感覚も変わってくると思います。視点を変えたことで、水の大切さを見つめなおすいい機会になりました。

## 第二章

ここでは、オーストラリアで体験したファームステイのことを書きます。

1月4日午前1時ごろ、真夏のケアンズ空港に着きました。農業科学館の温室のような蒸し暑さで寝不足になり、午前7時からの朝食はあまり食べることができませんでした。秋田との気温差と寝不足、それに加えて蒸し暑さで倒れそうでした。水分補給の大切さを身をもって感じました。昼食を食べた後、ホストファミリーと面会し、3泊4日のファームステイが始まりました。

### ホストファミリーの紹介



父 ロバート

パワフルですごくカッコよくて優しいし面白い!!でも、ファームの仕事を黙々とこなす一面も。

母 ターニャ

美人で優しく料理上手。

長女 リア

元気いっぱいピンク大好きなお姉ちゃん。

次女 イザベラ

好奇心旺盛！時々ハラハラさせられました。

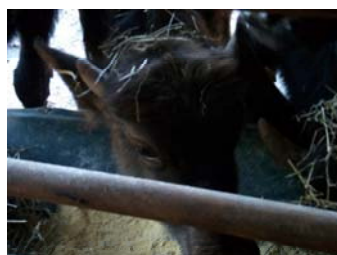
ここの農場はオーストラリアで2つしかない**バッファローファーム**のうちの1つです。バッファローのミルクからチーズなどの乳製品を、バッファローの肉からはソーセージなどの加工食品が作られています。有名な農場で、雑誌に載ったこともあるそうです。



バッファローのミルク

### ホストファミリー宅での手伝い

- I. ジャガイモの皮むき。かなり芽が出ていたのと、ナイフを使っただったので、大変でした。
- II. バッファローの世話。リアちゃんが放棄してしまったので、とりあえず餌をあげました。
- III. バッファローの世話パート2。一緒にファームステイした4人の中には、バッファローの独特な臭いに慣れるのに苦労している人もいたようでした。
- IV. 子供のお世話（一緒に遊ぶ）。一緒にゲームをしたり、外で遊んだりしました。
- V. 食事の準備。ナイフとフォークをセットしたり、食べ終わった後、片付けをしました。



### オーストラリアと日本の生活の違い

- ・ドアに鍵が付いていない。
- ・部屋にいるとき、着替えているときや寝るとき以外はドアを少し開ける。
- ・バーベキューの台が各家庭に一台はあり、しかも公園にもある。

- ・外でも裸足。外出するときは日焼け止めとサングラス、帽子が必需品。



- ・動物を飼っている家が多い。

また、日本人に比べて時間におおらかです。ある日、「湖に行く」と言ったので、急いで準備をしたら、ホストファミリーの人たちは、ゆっくりと準備をしていました。それから、友達の家に寄って、友達も一緒に湖の近くの公園でバーベキューをしてから湖に行きました。この日は、オーストラリア人と日本人との時間の感覚の違いを感じました。

## ファームステイ先での食事

朝食・・・トーストとシリアル。カシス味の炭酸飲料が印象に残りました。

昼食・・・主にハンバーガー。パンもお肉も全部でかい！！

夕食・・・お肉メイン。パンとサラダ付き。かなりのボリューム！！

デザート・間食・・・ターニャさん手作りのケーキやマフィン。

飲み物は、自家製のレモネードやマンゴージュースがありました。飲み物も食べ物も全て美味しかったです。



## ファームステイで感じたこと

ファームステイで、日本とオーストラリアの家庭の違いを体験することができました。日本にいたら、日本式の生活しか知らなかったなので、視野を広げられたと思います。また、農場のオーナーのロバートさんは、朝早くから黙々と農場で仕事をしていました。上に立つ人が率先して仕事をしている姿を目にして、見習いたいと思いました。

最後に、とても忙しいにもかかわらず、私達を快く招いてくださったロバートさん一家に感謝したいです。



# オーストラリアの食生活

派遣生番号 No.2

大仙市立大曲中学校 2年 葛西 菜央

## I 初めに

私は、大仙市海外派遣事業に参加するにあたり期待と不安がありました。なぜなら、海外に行くと日本との生活の違いを感じてきたいと思いつつ、自分は外国人と話す機会があまりなく、片言の英語がちゃんと外国の人々に通じるかどうか疑問に思っていたからです。そこで、その両方について確かめてみたいと思い、海外派遣事業に応募しました。

## II テーマ設定理由

### テーマ 日本人の食生活はどうあるべきか？

日本では、最近ファストフードやコンビニ弁当など、脂っこい食べ物や塩分の多い食事をとることが多くなり、日本の文化の「和食」を食べる機会が、減ってきていると感じます。そのため、オーストラリアと日本の食生活を比べて、日本食の良さについて調べたいと思い、このテーマを設定しました。

## III 調べた内容

### 1) オーストラリアではどんなものが多く出てくるか？

～朝食～

：食パンにいろいろな具材を載せるサンドイッチが多い

：ヨーグルトが多い

～昼食～

：ソーセージが多い

：結構軽めのものが多い

～夕食～

：オージービーフを使った料理が多い





：主食が少ない

～デザート～

スイーツの上に生クリームや甘いソースをかけてもっと甘くしている

～全体的に～

しょっぱいものが多い

甘いモノが多い



味がきわだっている感じがする。

## 2) 料理を作る中で一番大切なことはなにか？

いろいろな人にアンケートをした結果このような結果になりました。

### 1, 衛生面 2, 心を込めて作る 3, 水の無駄遣いをしない

1の衛生面と2の心を込めて作るは、日本と同じでした。3の水の無駄遣いをしないは、オーストラリアならではの、だなと思いました。

## 3) 日本人の食生活はどうあるべきか？

この研修を通して日本人はもったいないことをしているなと思いました。なぜなら、食べ残しをそのまま捨てているからです。また、嫌いだからとか多いからといって残す人が沢山います。しかしオーストラリアでは、食べ残しや料理を作るときに出たゴミを家で飼っているペットにあげてごみを減らしています。また、たくさん作って余ってしまった物は次にも出したりしています。日本も、オーストラリアと同じようにすればいいのかなと思います。ファストフードやコンビニ弁当などをとることが多くなり、日本の文化の「和食」を食べる機会が減ってきているのは、日本人の食生活が乱れてきているからだと思います。ヘルシーでバランスのとれた和食を、もっと日本の人々に食べてもらいたいです。外国では、健康意識の高まりと共に和食が注目されていると聞くので、もし機会があれば世界の人々にも和食の良さを伝え和食を食べてもらいたいです。

## IV オーストラリアでの出来事

1日目 1月3日(月)

ドキドキ、ワクワクで仙台空港からオーストラリアに向かいました。ケアンズ空港に着いたのは、夜中の1時でした。税関を過ぎてから扉を開けると、蒸し暑い空気が流れこんで来ました。それから約2時間かけて、バスでマンガリーフォールズに行きました。



2日目 1月4日(火)

少しの仮眠のあと、朝食を食べました。午前中はロッジの周りを散策しました。案内してくれた日本人スタッフの泰斗さんは、「この辺り一帯は世界遺産だよ。」と教えてくれました。

午後は、ホームステイ先の BOSS さんと面会しました。家まで車で行く間に「ホームステイしている間は、パパと呼んで」と言ってくれました。また、車に乗っているときに牛を見つけて「cow,cow」と言っていると、パパは、「beef steak」と言って笑わせてくれました。家に着くと2匹の犬が迎えてくれました。ママは、家の中と周りを案内してくれました。外には、アヒル、子豚、鶏、沢山の鳥がいました。



とても優しいマリタさんと  
ゆかいなハンズさん



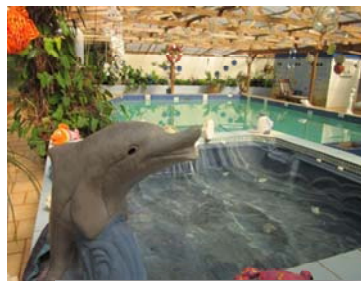
ナゲット



シェイシー



チャーリー



豪華なプール

3日目・4日目 1月5・6日(水・木)

有名な滝巡りやいろいろなお店に行きました。ストーンショップでは、アメジストを買いました。

3日目には、パパとママに日本食を作ってご馳走しました。2人とも喜んで食べてくれました。

4日目には、湖に行きました。湖では初ダイビングをしました。念願のマンゴーの贅沢食いもしました。これまで食べた中で一番おいしかったです。



5日目 1月7日(金)

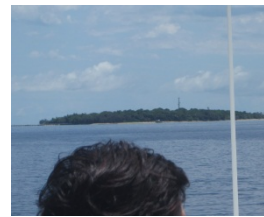
早起きをしてそうめんを作りました。この日も喜んで食べてくれました。この日の朝でパパ、ママともお別れ。もっとホームステイしていたいと思いました。

午後からは、オーギーキッズといろいろなことをして楽しみました。野生のワラビーも発見、夜はツチボタルと星を鑑賞しました。すごくきれいでした。



6日目 1月8日(土)

マンガリーからグリーン島へ。海の中が透き通っていてきれいでした。ウミガメを発見しました。



7日目 1月9日(日)

午前、キュランダへ。コアラとワニをだっこしました。午後、ケアンズで買い物。夜、ケアンズ空港から仙台へ出発。たくさんのおみやげを買いました。オーストラリアを離れたくないと思いました。



泊まったホテル

8日目 1月10日(月)

日本に到着。とても寒い。あっという間に秋田へ戻りました。



## V 海外研修を終えて

私は、この海外研修で色々なこと学びました。特に大切だと思ったことは「コミュニケーション」です。ホームステイ先でホストファミリーと会話するとき、英文がわからなくて単語だけで話すと、ホストファミリーは理解しようとしてくれました。もしその時に、分からないからといってなにも言わないと、相手も自分も困ってしまいます。ですから、単語だけでも相手に伝えるべきだと思いました。

また、初めて日本を離れてみて日本のすばらしさを改めて感じることができました。この研修に参加させてくれた家族に心から感謝したいと思います。

最後に、海外研修で学んだことを、これからの生活の中や、将来に生かしていけたらいいと思います。

# オーストラリアで学んだこと

3番 大曲中学校 木村 朋子

## I はじめに

事前学習会や様々な準備をしながら、1月3日の出発の日を迎えました。いざ始まると、あっという間に8日間が過ぎてしまいました。帰るときには、「もっとオーストラリアにいたい」と思うほど、楽しく充実した毎日でした。この海外派遣で学んだことをまとめてみました。

## II テーマ設定の理由 テーマ「大仙市を皆が住みやす街にするには、どうすべきか？」

私は中学校に入学して、自転車通学をするようになってから、道路に段差が多いことに気がつきました。オーストラリアでは、バリアフリーが街の中に多く取り入れられているということだったので、大仙市も子供や高齢者、体の不自由な人、みんなが住みやすい街にするにはどうすべきか考えてみようと思いました。

## III 調べた内容

### 1 アンケート

バリアフリーやボランティア活動についての質問に、ホストファミリーや現地のガイドさんに答えてもらいました。

質問① あなたは今までにボランティア活動に参加したことがありますか？

答え はい(すべての人)

質問② どのようなボランティア活動をしましたか？

答え ・高校での学習のサポート活動(ホストファミリー)  
・マンガリフォールズでのガイド(マンガリフォールズのガイドさん)  
・熱帯雨林の木を植える活動(ケアンズのガイドさん)

質問③ なぜそのボランティア活動に参加したのですか？

答え ・子供たちの学習を手伝いたかったから。(ホストファミリー)  
・子供たちと活動するのが好きだから。(マンガリフォールズのガイドさん)  
・世界遺産を守るため。(ケアンズのガイドさん)

質問④ どれくらいボランティア活動に参加していますか？

答え ・16年くらい活動しています。(ホストファミリー お父さん)  
・9年くらい活動しています。(ホストファミリー お母さん)

- ・年に1回(マンガリフォールズのガイドさん)
- ・年に2回くらい(ケアnzのガイドさん)

質問⑤ 自分の住んでいる街はみんなにとって住みやすいと思いますか？

答え ・住みやすいです。(すべての人)

質問⑥ バリアフリーは大切だと思いますか。

答え ・とても大切だと思います。(すべての人)

質問⑦ 自分の住んでいる街をより住みやすくするにはどうすればいいと思いますか？

答え ・私たちの住んでいるところはとてもよいところなので、変える必要はないと思います。

(ホストファミリー)

- ・自分、家族、友達、身の回りの人が住みよい街にすれば、結果としてみんなが住みやすい街になると思います。(ケアnzのガイドさん)

このアンケートの質問項目は日本を出発する前に自分で考えて、英語に訳して持っていったものです。私の文章が分かりにくいところもありましたが、みなさんがとても親切に答えてくださったので、うれしかったです。

## 2 アンケートをもとにして考えたこと

### ① 街のバリアフリー

アンケートでは、すべての人がバリアフリーは大切なことだと答えています。街の道路は段差がないように作られており、車椅子の人のためのスロープなどもありました。(下の写真)



### ② ボランティア活動について

アンケートでは、いろいろなボランティア活動があることがわかりました。オーストラリアでは、自分の参加したい活動に、それぞれ参加しているようでした。ケアnzのガイドさんのお話では、オーストラリアの人は、自分の都合をボランティア活動に無理に合わせてまで参加するようなことはなく、日本人より無理をせずにボランティア活動に参加しているということでした。

## まとめ

アンケートの答えにもあったように、自分、家族、友達、身の回りの人が住みよい街になるように考えれば、住みよい街になるのではないかと私も思いました。そのためには、ボランティア活動なども大切だと思いますが、無理をせず、自分でできることをやるのが大切だと思います。

アンケートでは、答えてくれたすべての人が、自分の街は住みやすい街であると答えていましたが、大仙市もみんなが住みやすい街だと言えるような街になるといいと思います。また、そのような街にしていきたいと思います。

## IV オーストラリアでの出来事

### 1 ホームステイ

私がお世話になったホストファミリーは Bob さん、Carmel さん、John さんでした。3人とも、とても親切にしてくれました。

昼食に、日本から持っていったそうめんをゆでて、食べてもらいました。「おいしい」と言ってたくさん食べてくれました。そうめんのつゆのことを「SOY SAUCE(しょうゆ)」と言っていました。また、折り紙や



書道など、日本の文化を伝えました。日本が好きと言ってくれたことがとてもうれしかったです。買い物にも連れて行ってくれました。お店まではとても遠くて、オーストラリアの広大さを感じました。

### 2 オーストラリアの豊かな自然

マンガリフォールズでは、野生のワラビーを見ることができました。近くにたくさんいたので驚きました。

グリーン島では、とてもきれいな海で泳ぎました。グリーン島は国立公園なので、そこにある貝殻などは持ち帰ってはいけなくなっていました。

最終日には、キュランダ鉄道に乗って、キュランダ溪谷の自然を見ました。大きな滝を見るために、途中で列車が止まりました。あんなに大きな滝は今まで見たことがなくて、とてもびっくりしました。日本とは違った自然を体験できてよかったです。



## V 海外研修を終えて

私には外国の人と自由に会話ができるようになりたいという希望があり、この海外派遣に参加しました。ホストファミリーの方々に積極的に英語で話しかけて会話ができることがうれしかったです。また、ケアンズ市内の散策の時に、自分で料理を注文して買って食べることもできました。とてもよい経験になりました。この8日間で体験したことは、私にとって一生忘れることのできない思い出になりました。この機会を与えてくれた家族、先生方、私たちを受け入れてくれたホストファミリーの方々に感謝しています。オーストラリアで学んだことを、これからの生活に生かしていきたいと思います。

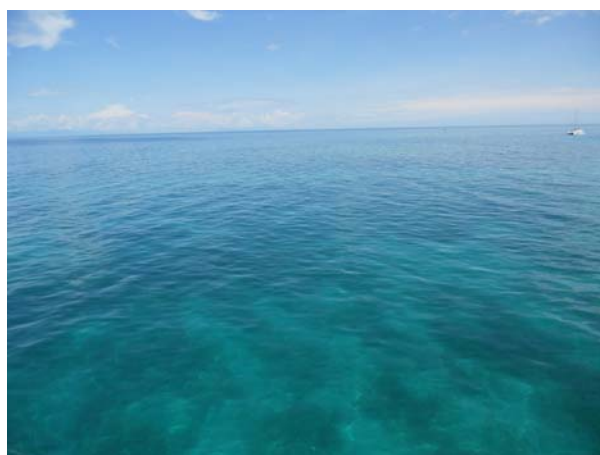


グラスボトムボートで見た魚の群れ



バロン滝

グリーン島の海



# AUSTRALIAレポート

派遣生番号No. 4

大仙市立大曲中学校2年 佐藤あかり

自主研究テーマ

自給率を上げることで地域の活性化につなげるにはどうすべきか

## 📍 初めに・・・

私が大仙市中学校海外派遣事業について知ったのは、小学校の頃です。英語を勉強していた私は、海外にあこがれを持っていました。「中学生になったら絶対に行く・・・！」小学生の私は、そう心に決めました。

そして中二の冬・・・ さあ、夢のようなオーストラリア研修が、始まります・・・！

## 📍 テーマ設定の理由

地産地消をして食料自給率を上げることで、地域の農作物が多く売れ農業の活性化につながります。また、生産者と消費者が互いに見えやすくなり、地域のコミュニケーションやつながりが生まれやすくなります。これらのことは地域の活性化につながると思います。食料自給率の高いオーストラリアからそのためのヒントを見つけて生かしていけたらいいと思い設定しました。

## 📍 オーストラリアで気付いた地産地消のためのヒント

### ①パッケージの表示やポスターから

オーストラリアの商品のパッケージには、次のような工夫がありました。



←これは、ファームステイ先の朝食で食べた、シリアルのパッケージです。オーストラリアでつくられたことを示すマークがついています。大仙市の商品にも、その地域でつくったことが一目で分かるマークがあればいいと思いました。



他にも . . .

Nutrition Information		
Average Serving Size: 250ml		
	Avg. Quantity per Serving	%DI* per Serving
Energy	660kJ	8%
Protein	8.0g	16%
Fat, Total	8.5g	12%
-Saturated	5.5g	23%
Carbohydrate	12.3g	4%
-Sugars	12.3g	14%
Sodium	115mg	5%
Calcium	293mg	37%

\*Percentage Daily Intakes are based on an average adult diet of 8000kJ. Your daily intakes may be higher or lower depending on your energy requirements.

一杯分が一日の必要量の何パーセントかを表示している

←これは、牛乳の容器に書かれていた表示です。牛乳一杯分が、一日に必要な栄養素の何%かを示しています。地域で売り出す商品にも、例えばレシピや栄養価など、実用的な情報が表示されていればいいと思います。それを通して、生産者の思いも伝えることができればいいと感じました。

スーパーマーケットには . . .



←「あなたが買う牛乳は、北クイーンズランド州の農家の助けとなります。」というような内容の、地産地消を勧める内容のポスターです。スーパー等にこんなポスターがあれば、地産地消をしようとする意識が高まるのではないかと感じました。

## ②多種類の農作物から

ロッジで食事をつくっている方に聞いたところ、ロッジでの食事は、全てオーストラリア産のものをつかっているそうです。また、ファームステイをさせていただいた、Coleman 家でも、食材は全てオーストラリア産だとホストマザーの Linda が教えてくれました。店で買ったものだけでなく、自分の家で作っているものもたくさんあるそうです。



←ファームステイー日目の夕食

ブロッコリーはホストファザーの Jack が庭で育てたものです。採れたてで新鮮でした。そしてポテトサラダの じゃがいもも、ホストマザーの Linda が育てたものだそうです。とてもおいしかったです。

スーパーに連れて行ってもらった時も、地元クイーンズランド州で作られた野菜などがたくさん並んでいました。近くでとれたものなので、輸送のコストも最小限に抑えられているし、輸送の時間もかからず新鮮だと思います。

★大仙市でも地域で採れたいろいろな種類の野菜がもっと多く売られていればいいと思います。そのためには私達消費者が地元で作られた作物の良さを知り、積極的に買うことが必要です。そうすれば、農家の方ももっとたくさんの種類の農作物を生産して、商品化してくれると思います。

### ③その地域にあった食品から

ロッジやファームステイ先で、クイーンズランド州でとれた牛乳を飲みました。濃厚でとてもおいしかったです。



←道を歩いていたら、いきなり牛に遭遇！！

この地域の特産品は牛肉、そして牛乳だそうで、かなりの数の牛がいました。



←ファームステイ先での朝食。

コーンフレークに地元でとれた新鮮な牛乳をかけて食べました。

オーストラリアでは、熱帯雨林の栄養豊富な土を利用した牧場で牛を育てることで、おいしい牛乳ができるそうです。やはり、その地域に合った特産品をつくるのが大切なのだと思います。

大仙市の特産品を調べてみると、私がよく知らないものもありました。学校で給食に出したり、実際に育てて料理したりする機会があれば、地域の人々の認知度が高まると思います。そして、その地域への親しみも一層わいてくると思います。地産地消にとどまらず、県外にもこれまで以上にアピールできたらいいなと思います。

### 📍 ファームステイ

☆☆☆Coleman 家にお世話になりました☆☆☆

### 😊Jack

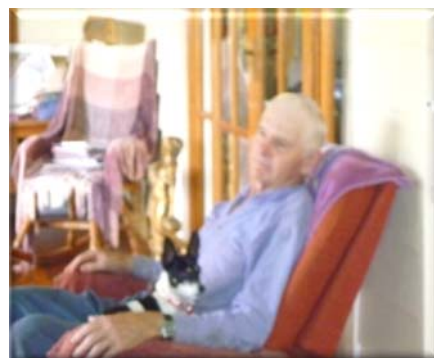
ホストファザーの Jack は、私たちをドライブに連れて行ってくれました。滝や展望台に連れて行ってもらいました。そして、一番印象に残ったのは、初めてカンガルーを見たこと



ことです！！私たちのすぐ近くにいて、とてもびっくりしました。

ホストファザーの Jack です→

←林の中にいたカンガルーを発見！！



😊Linda



↑ホストマザーのLindaです。

ホストマザーのLindaは明るく親しみやすい方で、パワフルなお母さんでした。じゃがいもなどを作って出荷しています。いつも私たちに気さくに話しかけてくれました。会話をする時は、ゆっくりと私たちに伝わるように話してくださって、とてもありがたかったです。



↑じゃがいもが出荷されます。

🌀 終わりに・・・

今回のオーストラリア研修は、私にとって、とても実りのあるものでした。オーストラリアの大自然、人々との交流、全てが大切な思い出です。オーストラリアの素晴らしさを体感することができ、本当によかったです。

同時に、日本や大仙市の良さにも改めて気づくことができました。そして、当たり前と思っていたことが、実はとても貴重なことであることにも・・・。

私は、ふるさと大仙市をこれまで以上に大切に思い、誇りに思うようになりました。将来は、私のふるさとである、日本、そして大仙市に貢献できる人間になれるように成長したいです。周りの人たちに、日々感謝の気持ちを持って生活していき、私も地域を担う一員としてたくさんの人達の役に立ちたいです。

そして、私と同じように自分のふるさとを思う、違う言語や文化を持つ人々の気持ちも大切にできる人間でありたいと思います。



↑広大な自然に生息するワラビーも見ました。

今回のオーストラリア研修でお世話になった皆様、  
本当にありがとうございました。



# オーストラリア海外研修報告

## 【中学生の家庭での役割、休日の過ごし方はどうあるべきか】

NO.5 大曲中学校 富樫幸恵

### I. はじめに

私がこのオーストラリア研修への参加を希望したのは、日本とオーストラリアの違いを実際に自分の目で見て知りたいと思ったからです。また、生の英語に触れることで、私自身の意識が変わり、視野が広がるのではないかともしました。

そして、オーストラリアで学んできたことをたくさんの人たちに伝え、私たちにできること一身近なことを少しずつ変えていくことや学校生活をより良くすること一に取り組むことが、大仙市をより良くするための第一歩につながっていくのではと考えました。

テーマ：中学生の家庭での役割、休日の過ごし方はどうあるべきか？

テーマ設定の理由

私は、家で手伝いをあまりしません。周りの友だちにきいてみると、やはりやっていない人もいれば、朝早く起きて朝食を作っている人もいます。学校での生活は、少なからず家庭での過ごし方に影響をあたえます。そして、それは家庭での役割にも影響をあたえるのか？

また、休日の過ごし方も人それぞれです。部活動があったり、習い事があったり、イベントがあったりもします。忙しい中で、休日はどのように過ごすべきなのか？

この二つを日本とオーストラリアで比べて、より充実した生活を発見したいと思い、このテーマにしました。

### アンケート用紙

January 2011

### II. アンケートの内容について

1日のはじめから、おわりまでを調査しました。

- ①毎朝何時に起きるのか？
- ②学校へはどうやって行くのか？
- ③休み時間は何をしているのか？
- ④宿題は毎日あるのか？
- ⑤毎晩何時に寝るのか？
- ⑥手伝いは毎日するのか？
- ⑦また、どんな手伝いか？
- ⑧部活動はしているか？
- ⑨また、運動部か文化部か？
- ⑩余暇は何をしているのか？

### III. アンケートの実施方法

オージーキッズと交流した時、4人のキッズに協力してもらいました。

男の子2人、女の子2人に聞きました。

### Questionnaire survey

I was interested about Australia life-styles same generation as me.  
Please answer the following question.

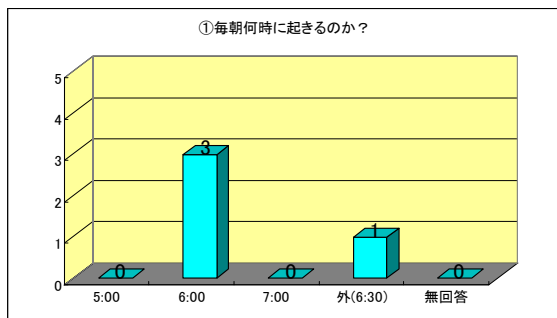
1. What time every morning do you get up?  
① 5:00 ② 6:00 ③ 7:00 ④ other( )
2. How do you go to school?  
① on foot ② by car ③ by bike ④ other( ) bicycle
3. What do you do in the school at resting time?  
① talk ② exercise ③ study ④ other( )
4. Is there homework every day? yes / no
5. What time do you go to bed every evening?  
① 21:00 ② 22:00 ③ 23:00 ④ other( )
6. Do you help at home every day? yes / no
7. What help is it?  
① wash the dishes ② wash ③ clean ④ other( )
8. Are you doing club? Yes / no
9. Sports-club or Cultural-club ?  
sports-club / cultural-club
10. What do you do when you are free?  
① play games ② read a book ③ watch TV ④ sleep ⑤ other( )

Thank you for your cooperation.

by Yukie Togashi

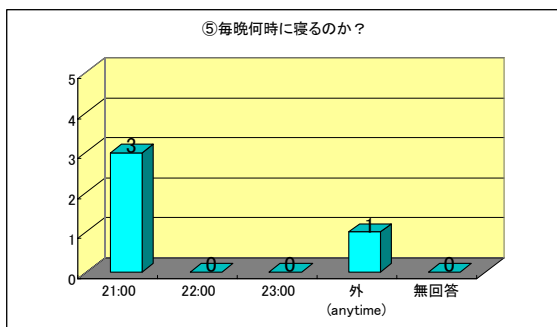
(Akita. Daisen. Omagari junior high-school)

#### IV. アンケートの結果から (普段の生活)



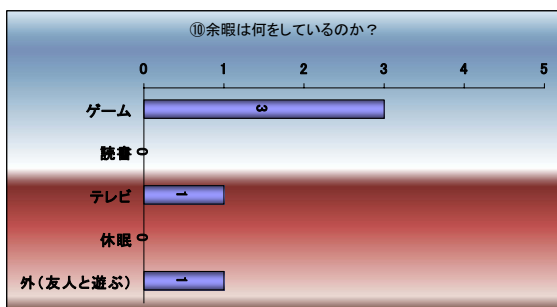
##### ①毎朝何時に起きるのか？

この質問には、全員が答えてくれました。  
6：00に起きる人が3人、6：30が1人でした。



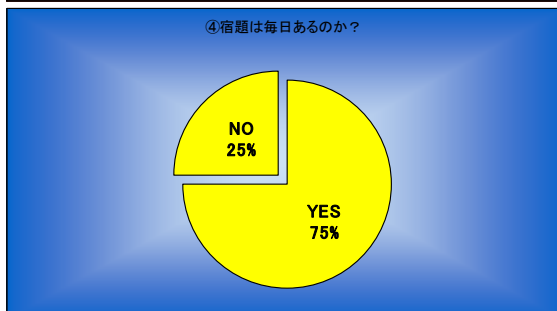
##### ⑤毎晩何時に寝るのか？

この質問にも、全員が答えてくれました。  
21：00に寝る人が3人、anytimeが1人いました。  
この anytime は時間が決まっていなく、いつもまちまちだという意味だと思います。



##### ⑩余暇は何をしているのか？

この質問にも、全員が答えてくれました。  
複数回答があったので、グラフ上では5人分の回答になっています。ゲームをする人が3人、友だちと遊ぶ人が1人、テレビを見る人が1人でした。



##### ④宿題は毎日あるのか？

この質問にも、全員が答えてくれました。  
あると答えた人が3人、ないと答えた人が1人でした。

#### この結果から・・・

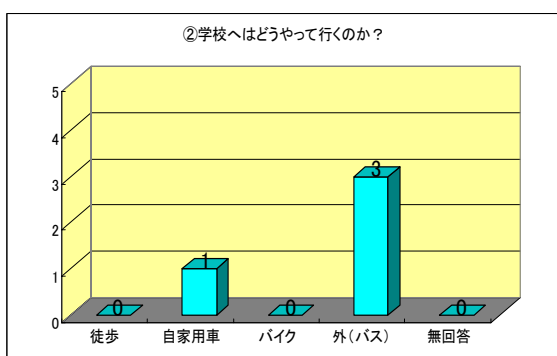
起床時間、就寝時間が全体的に早いことから、「早寝早起き」だということがいえます。

太陽と共に目を覚まし、夜は早めに就寝するのは、とても健康的だと思います。

そして、夜更かしをしないことで無駄なエネルギーを使わないので環境にも良いと思いました。

また、余暇はゲームをしたり友だちと遊ぶということ、宿題が毎日あるということから、時間を有効に使っているのだなと感じました。

#### (学校生活)



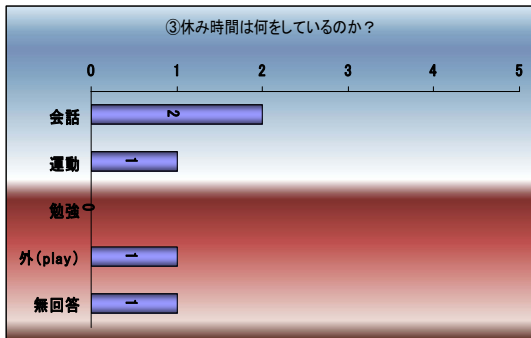
##### ②学校へはどうやって行くのか？

この質問にも、全員が答えてくれました。  
バスで行くという人が3人、車で行くという人が1人でした。

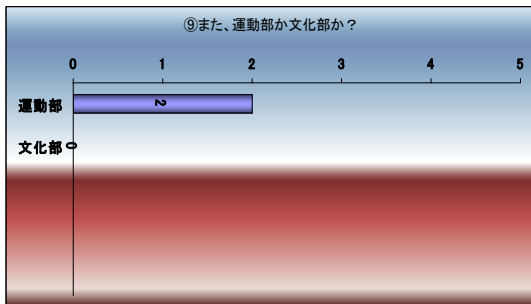
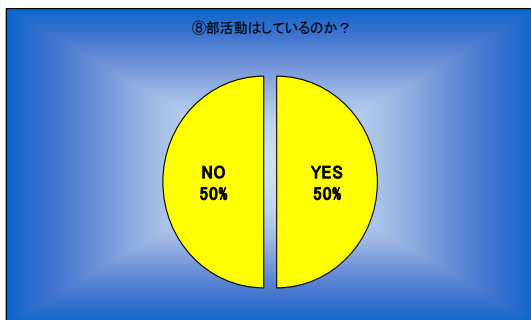
##### ③休み時間は何をしているのか？

この質問には、3人が答えてくれました。  
複数回答があったので、グラフ上では、5人分の回答になっています。

友だちと話すという人が2人、運動するという人が1人、playと答えた人が1人、無回答が1人でした。この場合の play は、遊ぶという意味だと思います。

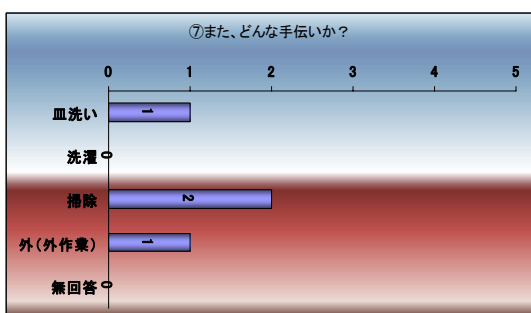
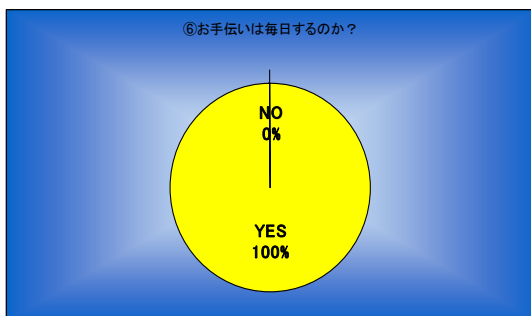


(クラブ活動)



(家庭の一員として)

⑥手伝いは、毎日するのか？



この結果から・・・

オーストラリアでは、どこに行くにしても車を使って移動していました。

このことから、家から学校までの距離も遠いということが予想できます。

だから、バスや車を利用しているのだと思います。

休み時間は、友だちと話したり、運動したりしていることから、自分たちの好きなことができると考えられます。

⑧部活動はしているか？

この質問には、全員が答えてくれました。

部に所属している人が2人、所属していない人が2人でした。

⑨また、運動部か文化部か？

部に所属している人は2人でしたが、どちらもフットボールクラブに所属していました。

この結果から・・・

私の通う学校では、特別な理由がないかぎり部に所属することになっています。オージーキッズたちの通う学校では、自由なのだろうかと思いました。

この質問にも、全員が答えてくれました。

そして、全員が手伝いを毎日すると答えていました。

⑦また、どんな手伝いか？

皿洗いが1人、掃除が2人、外作業が1人でした。

この結果から・・・。

どんな手伝いにしろ、手伝いは大事なことだし、手伝いを毎日継続することも、慣れなければ難しいことだと思います。そして、すごいことだとも思います。見習わなければいけないと感じました。

## V. 今後の課題

今回は、オーギーキッズとの交流でアンケートに答えてもらいましたが、少数の人たちにしか聞くことができませんでした。もっと多くの人たちに聞くことができれば、たくさんのデータをあつめることができたと思います。そこが課題だと感じました。

今後、アンケートを計画している人がいたら、周りの仲間たちに協力してもらい、できるだけ多くのデータを集められるようにするのが良いと思います。

## VI. 海外研修に参加して

### 【ファームステイ】

私がこの研修で一番印象に残っているのは、ファームステイです。三日間、私がお世話になった Ross family (ロスファミリー) は、ホームファームの家でした。最初はとても不安でしたが、ホストファミリーの皆さんが親切にしてくれたおかげで、すぐにうちとけることができました。



### 【家族構成】

お父さん：グレン<とてもおもしろくて楽しい人です>

お母さん：スウ<優しく、料理が上手です。>

女の子：クリスタル<15歳には見えないぐらい大人！  
笑顔が素敵！！>

男の子：ダニエル<明るくて元気な男の子！>

他にも、犬の Brindy (ブレンディー) や 猫の Tiddles (ティドゥース)、トカゲ、オカメインコ、ニワトリがいました。ファミリーの皆さんは、私たちのためにドライブや観光、散策など毎日たくさんの体験をさせてくれました。

### 【おみやげ】

私たちは日本からのお土産として、折り紙、あやとり、うちわ、扇子、年賀状、お年玉袋、花火カレンダーを持っていきました。

折り紙は、みんなで鶴を折りました。あやとりは、ほうきの作りかたを教えました。うちわと扇子は、扇いで使ってくれていたのよかったです。年賀状やお年玉袋は、説明が難しかったけれど、理解してもらえたと思います。

また、大仙市は花火でも有名なので、花火の載ったカレンダーをプレゼントしました。

そのお返しに、オーストラリアの国旗とかわいいブレスレットをもらいました。

## VII. 終わりに

私は、この研修を通してたくさんを知りました。

一つ目は、『早寝早起き』をして時間を有効に使い、家庭での役割を果たすということです。いつもひとからやってもらって“あたりまえだ”と思っていたことを、自分でやって“あたりまえだ”と思うようになりました。全部人任せではなく、まずは自分でやってみることが私には必要だと感じました。

いつもとは違う環境で生活したことによって自分自身を見つめ直し、向上していくべきところが見つけれられたように思います。

二つ目は、コミュニケーションの大切さです。学校の勉強でたくさんの表現や単語を習ってきたけれど、いざとなると緊張して話せなくなってしまう。どんなに短い表現でも、その時ばかりは、とても難しい英文に変わってしまいます。だから私は、相手の目を見て伝えることを心がけました。いつもそんなに意識していないことだったので、慣れるまで難しかったです。でも、自分で発した言葉が相手に届いた時、今まで感じたことのない感動を味わうことができました。

言葉で伝えること、人と関わり合うということは難しいことだけれど、“伝えたい”と思って表現することによって伝わるということを知りました。

オーストラリアの良さを感じると同時に、日本の良さも再発見できた研修でした。

# オーストラリアでの研修から・・・

No.6 大曲中学校 西村 友香

## 1. はじめに

私がこの研修に参加したいと思ったきっかけは、「習った英語を試してみたい」、「親に頼らない生活を体験してみたい」、「外国の自然を見てみたい」という思いからでした。行くことができること決まってからは、とても楽しみでした。でも、行く日が近づくにつれて不安にもなりました。

そんな私を待っていたのは、最高の7日間でした！！

## 2. 調べたこと

### テーマ：自然や環境を守っていくためにはどうするべきか？

設定の理由： 日本では、ペットボトルやアルミ缶、スチール缶などをリサイクルしています。でも、他の地域や国ではどの程度リサイクルしているか分からなかったのので、リサイクルに対する意識や分別のしかたの違いを知り、日本と比べてみたいと思いました。また、私の通学路には、ポイ捨てされたゴミがたくさんあるので、どうすれば減らせるか、その点の工夫も知りたかったです。

### ☆ホームステイ先のママに聞いたこと・・・

#### ・生ゴミの処理について

野菜や果物の食べ残しは堆肥にする。

#### ・リサイクル

オーストラリアでは、各家庭に二つ大きなゴミ箱がある。

分け方は、リサイクルできるものとできないもの。できるものはアルミ缶、ペットボトル、スチール缶、古紙、トレイで、それらは分別せず一緒に捨てる。

#### ・ケアンズの歩道には・・・

なんと、50メートルに一つか二つの間隔でゴミ箱が設置されていました。そのためか、道路にゴミはほとんどありませんでした。

### ☆調べたことから・・・

ゴミの分別は、細かく分けているという点では日本のほうがよくできていると思いました。でも、生ゴミの処理は、燃やさない、活用するという点でオーストラリアのほうがよくできていると思います。ケアンズでは、ゴミ箱をたくさん置くことで町がきれいになっていました。さらに、ゴミ箱には呼びかけのラベルが貼られていました。この工夫は、ここ大仙市でもポイ捨て防止策として使えるのではないかと思います。



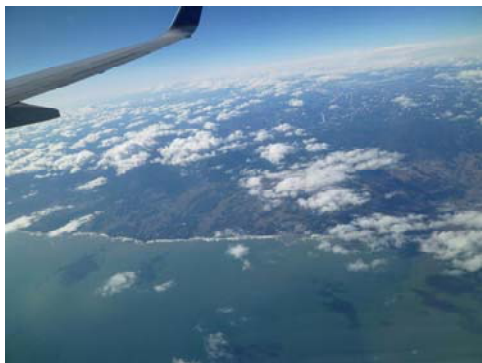


### 3. オーストラリアでの思い出！！！！

#### ・初の飛行機！！

私は今回の研修で生まれて初めて飛行機に乗りました。飛び立った瞬間、思わず友達と拍手をしてしまいました。空からのながめはとてもきれいでした。

機内食もGOODでした。



#### ・オージーキッズとの交流！！

7日に、現地学生（オージーキッズ）と障害物競争やいかだ作り、ダンスを楽しみました。障害物競走では、沼で泳いだり、かえるやおたまじゃくしがいるところを飛び越えたりで泥だらけになって楽しみました。その帰りに、なんとカンガルー発見！おじさんが「カンガルー！！」と指さして教えてくれました。ある男の子が、私のしゃべった日本語をまねして話そうとしていて面白かったです。（残念ながら、言えていませんでしたが。）ダンスでは、振り付けをおぼえるのに必死でしたが、たくさんの曲を踊り、盛り上がってよかったです。

#### ・ツチボタル&ヒカリゴケ ウォッチング

オージーキッズとの交流後（夜）、滝まで歩いてツチボタルを見に行きました。明かりを消して右側を見ると、光るたくさんのツチボタルが！！さらに帰る道にはヒカリゴケが！！とても神秘的な場所でした。

#### ・ワラビー発見！！

ロッジを出る日、食堂から戻ってくるとたくさんのワラビーがロッジの裏にいました。1, 2匹だと思って近づいてみると10匹以上いて驚きました。可愛いかった！！



#### ・グリーン島でのシュノーケリング

船でグリーン島へ。海は透き通るくらい真っ青できれいでした（どのくらいかというと、船の上からカメが見えるくらい）。シュノーケリングセットを借りて、いざ、DIVE！！水族館にいるようなカラフルな魚がのんびり泳いでいました。中には、50センチを超える魚もいてかなり興奮しました。



## ・キュランダ鉄道&アボリジニのダンス

9日、あの「世界の車窓から」のキュランダ鉄道に乗車！滝があり、ダイナミックな景色を堪能できました。(スピードがゆっくりだったので、途中少し眠くなってしまいました。)

汽車から降りた後は、アボリジニのダンスを見に行きました。不思議なダンスでした。そこで、人生初体験のコアラ&ワニ抱っこもしました。コアラは毛がふさふさしていて気持ちよかったです♪ワニの皮膚は思っていたよりも柔らかくて、持つとふにゃつとしました。(持つときはちょっと怖かったです。)



## ・カンガルーパイの味は・・・??

ワニ&コアラ抱っこが終わったあと、バスでキュランダ村に行きました。そこで、ガイドさんおすすめのパイ屋で昼ご飯にカンガルーパイを注文して食べてみました。例えようがない味でしたが、あえて言うなら野生っぽい味でした。おいしかったです。(大きかったなので、最後のほうはちょっと飽きました。)



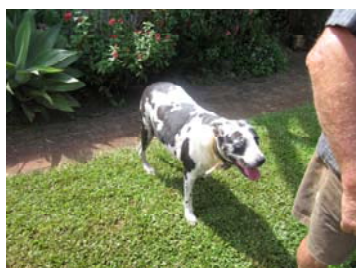
## 4. ドキドキ★ホームステイ

### ☆家族☆

ハンズ (パパ)、マリタ (ママ)、デイジー (鳥)、チャーリー (オウム)、ナゲット (犬)、シェイシー (犬・パピヨン)、ハンジー (鳥・インコ)、その他たくさんの鳥、豚、アヒル、鶏、バッファローがいました。



ナゲット



シェイシー



デイジー



チャーリー

ホームステイは、この研修で一番楽しみにしていたことであり、一番不安なことでもありました。でも、そんな不安はパパ・ハンズに会った瞬間に消えました。パパは明るく私たちに話しかけてくれました。家に着くと、ママ・マリタがケーキを作って待っていました。ケーキを食べた後、ママが家を案内してくれました。私たちの寝る部屋から室内プールまで、広い家の中をゆっくり見て回りました。小屋みたいに大きい冷蔵庫にも入って、涼しかったです。全体を見た後、30分くらい家族についての話をしました。オーストラ

リアに来て、はじめてたくさん英語を話しました。自分のことを伝えるのは思っていたよりもすんなりいきましたが、ママの話す英語を聞き取るのはとても難しかったです。そのあと、プールに入りました。深さは、2メートル45センチで全く足がつかせませんでした。



手作りブルーベリーケーキ



プールとジャグジー



泊まった部屋

オウムのチャーリーは、最初の日話してくれませんでした。でも次の日いってみると、「HELLO～」と一人で言っていました。「チャーリー」と呼ぶと、「ハロ～、チャーリー」と言ってくれました。デイジーは人なつっこくて、近くを通ると寄ってきてくれました。えさを食べるときは、足を使って器用に食べていて驚きました。ナゲットはとてもビッグで最初は怖かったけれど、慣れてくるとかわいかったです。

パイナップルも収穫しました。もちろん生まれて初めての体験です。ママに教えてもらいながらやりました。(パイナップルの葉が足に刺さって少し痛かった。)

二日目は滝や不思議な木を見に行きましたし、夜には外に出て星を見ました。見たことがないたくさんの星でした。

毎晩皆ですごろくのようなゲームをしたのも楽しかったです。とてもEXCITINGで盛り上がりました！！



畑で育てているパイナップル

**パパ、ママありがとう！！！！**

## 5. 海外研修を終えて

この研修では、初めての経験をたくさんすることができました。ロッジでは、ずっと見たいと思っていたワラビーやカンガルーを見ることもできたし、大自然の中でたくさんのお綺麗なものも見ることができました。さらにオーストラリアで限られた水で生活したことで、水を大切にしようという意識が高まりました。英語は、オーストラリアから帰ってきて最初のテストでリスニングの点数が上がりました。オーストラリアでの経験は、いろいろな面で私にいい刺激をあたえてくれました。これからの生活でこの経験を最大限に生かしたいと思います。

# オーストラリアレポート

NO.7 平和中学校 小林凜乃

## I はじめに

わたしは、外国の文化に触れたり、それを日本の文化と比較したりすることが好きです。そういった理由で、以前韓国へ行ったこともあります。今回も、自分の将来のために経験を生かすことができるのではないかと思います、この海外派遣に応募しました。

## II テーマ設定の理由

わたしは、「自然を守るにはどうしたらよいか」という研究テーマをたてました。大仙市にもたくさんの自然がありますが、今、その自然が地球温暖化等の影響を受けて、大きく変わろうとしています。そのため、その中で生活している私たちが、少しでも自然に負担をかけないように、そして守っていくためには、どのように生活を改善するとよいただろうかと思い、このようなテーマを設定しました。



## III テーマについて

わたしは、オーストラリアで二つのことについて調べてきました。一つは「水」について、もう一つは「環境」についてです。研修へ行く前に、オーストラリアでは水不足で困っているということをインターネットで知り興味をもったことと、砂漠が多く居住できる地域が少ないオーストラリアには、大仙市の自然を守っていくためのカギとなる何かがあるのではないかと思います、水と環境のことについて詳しく調べることにしました。

### 1 水について

ホームステイをした Peake 家のお父さんに「この家では水不足で困ることはありません

すか？」と質問したところ、「今住んでいる地域では、雨がたくさん降るので水不足では困っていません。」という答えが返ってきました。ロッジのスタッフの方にも聞いてみると、やはり水不足では困っていないし、水の節約もあまりしていないということでした。オーストラリアでは砂漠が多く全体の降水量は少ないようですが、クイーンズランド州は世界最古の熱帯雨林もあるので雨がが多いそうです。

## 2 自然・環境

次に Peake 家の方に、「自然を守るということ意識して生活していますか？」と聞くと、「もちろん意識している」との答えでした。具体的には、生ごみをニワトリの餌にする、エアコンは極力使わず自然の風を取り入れるようにしているとのことでした。

同じ質問をロッジの方にとすると、ロッジのスタッフの方々もやはり「自然を守る」ということを意識しているとのことでした。ロッジでは、ごみを生物分解してから川に流すそうです。また、ポイ捨ては絶対しないということが徹底されていて、周辺にごみが落ちているということはありませんでした。それから、世界遺産のグレート・バリアリーフでは、新しく建設されるリゾート施設に対し、3次処理された下水以外の放出を禁止するなど、環境の維持に努めているそうです。

## 3 まとめ

オーストラリアで過ごして感じたことは、一般の家庭でも宿泊施設でも無駄なごみを出さない工夫をすることで、ごみを“捨てる”のではなく自然に“返す”という感覚が人々の身についているということです。その感覚があるからこそ、素晴らしい自然が守られているのだと思います。至る所にごみ箱があったのは、川や森林などにゴミを捨てずに、ゴミ箱へきちんと捨ててほしいからだと思います。また、オーストラリアの空気は、去年の秋に修学旅行で行った東京に比べてきれいだなぁと感じました。このように感じられるのも、オーストラリアに住んでいる人達一人ひとりが「自然を守る」ということを意識して生活しているからだと思いました。わたしたちが一週間過ごしたクイーンズランド州では、水不足などで困ってはいませんでした。しかし、オーストラリアの40%が非居住地帯だということも知



りました。理由は土壌の栄養分が少ないということ、降雨量が少ないこと、塩害が発生しやすいからだそうです。これらは近年の地球温暖化の進行と共に、どんどん悪化しているそうです。大仙市の環境を守るということは、世界の環境を守るということに繋がるのではないかと、今回の研修であらためて感じました。

## IV 初めてのホームステイ

初めてのホームステイを経験して、驚いたことがたくさんありました。

### 1 犬が放し飼い！！

日本では犬にリードをつないでいるのがふつうですが、わたしがホームステイをした Peake 家では放し飼いでした。

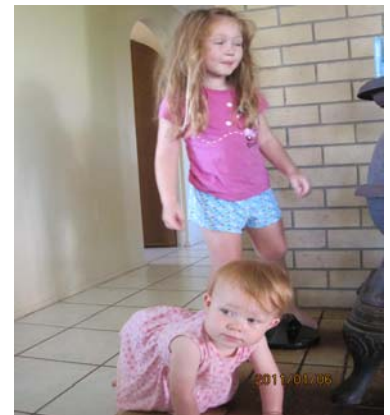


### 2 トイレのカギがない！！

公共の場所（空港や店など）にあるトイレは、日本で見かけるトイレと同じでしたが、ロッジや Peake さんのお宅ではトイレにカギが無く、誰も入っていないときは、ドアが開いていました。

### 3 玄関がない！！

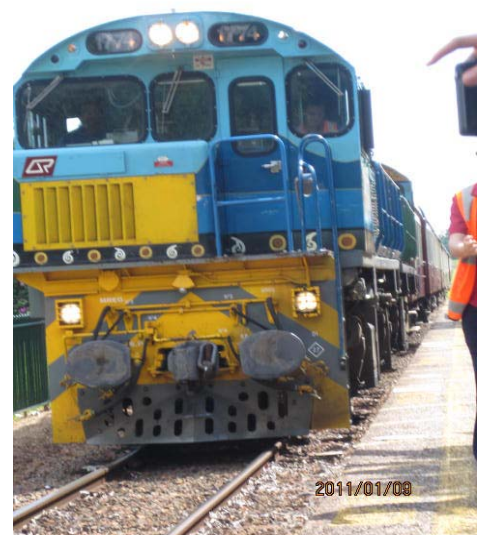
車を降りて家に入ろうとしたとき、「玄関がない！！」と行ってしまいました。というのも、Peake 家では、日本でいう縁側のような所から靴を脱いで家に入ります。日本のような玄関ではなく、窓を開けて家に入るという感じだったので、最初はとても違和感を感じました。



Peake 家のみなさんにはいろいろ親切にいただき、とても有意義な時間を過ごせました。

## V キュランダ溪谷

キュランダ溪谷では、キュランダ鉄道に乗って世界最古の熱帯雨林を見ることができました。熱帯雨林は木々が生き茂っていて、とてもリラックスすることができました。この列車に乗ってキュランダ村に行き、お土産を買ったり昼食をとったり、アボリジニの人たちと会ったりしました。（アボリジニとい



うのは日本語でいうと原住民という意味で、もとはアジア系の人だそうです。) ここでは、伝統的なダンスややり投げを見ました。わたしたちも一人ずつブーメランを投げたり、コアラやワニと一緒に写真を撮ったりしました。

## VI 研修を終えて

今回の研修ではとてもいい経験ができたと思います。この研修をきっかけに、何事も自分から進んで体験し、コミュニケーションをとることが大切だということを知りました。今までの自分であれば、まず他の人がやってから自分も、ということが多かったのですが、それをまず自分からという考えに転換しなくてはならないことを自覚しました。オーストラリアの人たちは、この考えをもっているからこそ自然を守ることができると思いました。これからわたしは、生徒会の一員として「自分から」という考えをもち、大仙市の自然を守る活動や平和中学校の生徒会活動に、積極的に取り組んでいきたいと思います。

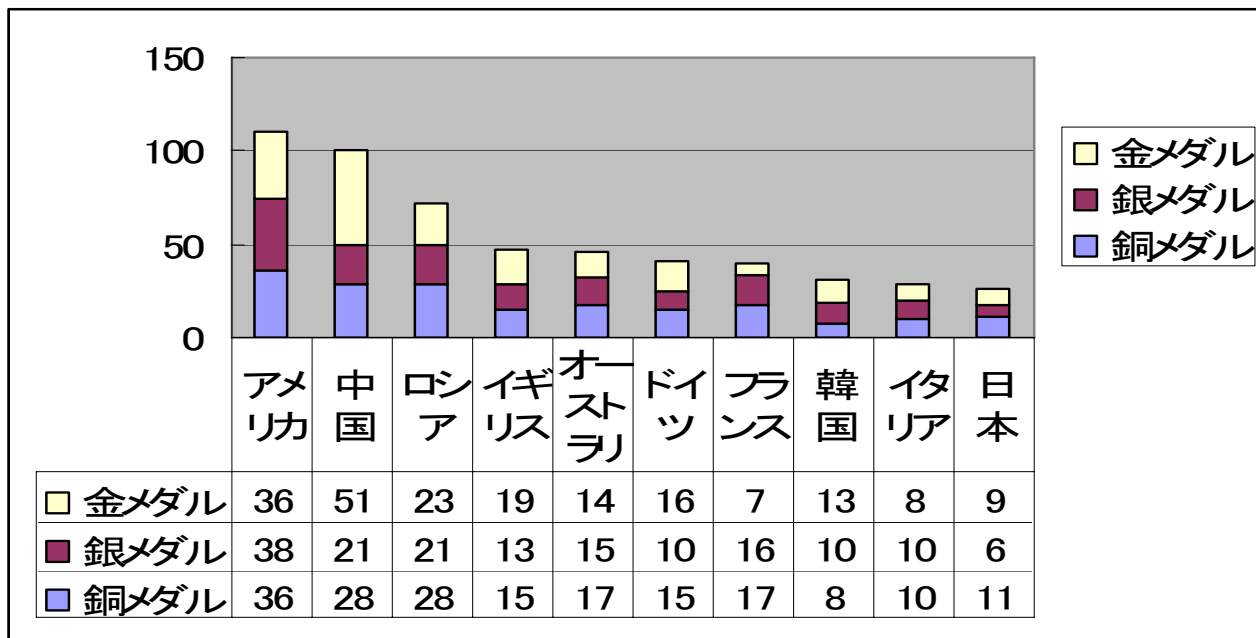


# オーストラリアのスポーツについて

No. 8 西仙北東中学校 伊藤昭人

## I はじめに

北京オリンピックでの主要各国のメダル数を見てください。オーストラリアのメダル獲得数は世界第5位です。



これだけでもすごいのですが、オーストラリアの人口は日本のわずか、約6分の1です。

どの国も日本と同じ人口として計算した場合、獲得金メダル数は下の表のようになります。オーストラリアは突出しています。ぼくは以前から、そんなスポーツ大国オーストラリアに興味を持っていました。今回実際に行けることになって本当にうれしかったです。

人口を日本と同じとして計算した金メダル獲得数（個）

アメリカ	中国	ロシア	イギリス	オーストラリア	ドイツ	フランス	韓国	イタリア	日本
15	5	21	39	84	25	15	34	17	9

## II 研修テーマと、その設定の理由

テーマ「もっと多くの人にスポーツに親んでもらうにはどうするべきか？」

ぼくは野球部に入っています。オリンピックでオーストラリアが強いのは、何か特別なトレーニング方法や選手育成のためのシステムがあるのではないかと考えました。そして、それがわかれば自分の野球の技術向上につながるのではないかと思います。また大仙市でも生涯スポーツに力を入れています。そこでオーストラリアのスポーツの現状を調べることにしました。



### Ⅲ 調べた内容

#### (1) 強さのヒミツ —その1—

ホストファミリーのダイアナさんにオーストラリアでさかんなスポーツを聞いてみたら、まずはラグビーだということでした。それからマリンスポーツ、テニス、ゴルフ、サイクリング、ジョギングなども盛んだということです。

また野球の原形となった「クリケット」という競技もテレビで中継されるなど人気があるそうです。ぼくもホストファミリーと一緒に観ました。

さらに日本のように1つの競技だけをやり続けることは珍しく、小さい頃からいろいろなスポーツに親しんでいるそうです。スポーツにはそれぞれ運動特性というものがあり、必要とされる運動能力が違うそうです。たくさんの種目を経験すると、獲得する運動能力も増えます。ぼくはこれが強さのヒミツだと思いました。

**子どもの頃からたくさんのスポーツを経験して、総合的な運動能力を高めている。**

#### (2) 強さのヒミツ —その2—

ホストファミリーにどうしてスポーツが好きなのかを尋ねると。次のような答えが返ってきました。

- ①楽しくて気分が高まる
- ②リフレッシュできる
- ③相手と仲良くなれる
- ④心地よい

日本で同じ質問をすると、必ず「勝つ喜び」が入ってくると聞きました。しかしこのことはあまりオーストラリアでは重視されていないようです。心からスポーツを楽しむことで、「勝たなければいけない」というプレッシャーから解放されているのではないかと感じました。メンタル面での強さのヒミツがそこにあるような気がしました。

**勝敗にこだわらずスポーツを楽しんでいる。**

#### (3) 強さのヒミツ —その3—

オーストラリアの人はとにかくよく食べます。食事の量が多く、間食もします。これだけ食べれば背が高くなると



思いました。スポーツでは体が大きいと有利なことが多いと聞きます。

またどの家庭にもプールがあり、水泳を毎日のように楽しんでいました。街に出ると体育館やテニスコートなどもたくさんありました。スポーツ環境が整っていると思いました。



ホストファミリーの家のプール

**とにかく食べて背が高い。環境や施設が整っている。**

#### IV エピソード

##### 1 びっくり！！何コレ珍百景



この写真はどこを写したものか分かるでしょうか？そうです。男子トイレです。たった1枚の板があるだけなのでとてもびっくりしました。どのようにしたらよいか迷いました。とても日本では考えられません。このトイレに「外国」を感じました。

##### 2 You are ジャポリジニ。

キュランダ村では、アボリジニの伝統的なダンスショーを見ることができました。世界最古の民族だと説明を聞き、ダンスも昔から長い間受け継がれてきたものだと思うと、重みを感じました。

アボリジニの方から指名を受けてステージに上がりました。そしてステージで一緒に踊ることになりました。アボリジニの人から「You are ジャポリジニ」と言われました。



##### 3 オーストラリアの動物に出会った！！

###### (1) ワラビー

コアラやカンガルーのようにオーストラリアにしかない動物がいます。なんと、ぼくは野生のワラビーを見つけました。えさをまくと少しずつ寄っ



てきてくれて、ぼくの手をガシッとつかんでえさを食べてくれました。とてもかわいかったです。

## (2) エリマキトカゲ

ホストファミリーとドライブしている最中に人だかりができていました。行ってみると、そこには、なんとエリマキトカゲが……。テレビでは見たことがありましたが、その姿は小さな恐竜のようでした。口をあけた姿は迫力がありました。



## 4 鉱物の国オーストラリア

オーストラリアは鉱物資源が豊富でたくさん採れます。特にオパールが有名です。ぼくは鉱物を集めたり発掘しに行ったりするのが好きです。東京で水晶を磨く体験をしたこともあります。

オーストラリアで買ってきた鉱物を紹介します。



水晶群



オパール



ブラックオパール

## 5 「やさしい心」は世界共通

グアム空港でジュースを買おうとしたときにお金が1ドル足りませんでした。お金がなくて困っていると、空港の警備員の方がぼくに1ドルをくれました。困っているときに助けてもらったので本当にありがたかったです。やさしい心は世界共通だと思いました。

## V 海外研修を終えて

今回オーストラリアに行ってみて、言葉だけでなく、自然の様子や文化や習慣が違うことを感じました。また今まで気付かなかったふるさと大仙市の良さも外国と比べることで見つけることができました。地元から古くから伝わる花火や大綱引きなどの伝統的な行事や、納豆汁・カレー温麺など大仙市特有の食文化は、世界のどこを探しても見つかりません。いつもそばにあるものが世界に誇れる素晴らしいものだということを感じました。

また、違いだけでなく共通のものもありました。空港で親切にされたとき、優しい心は世界のどこにでもあることがわかり、とてもうれしかったです。この研修で学んだことをこれからの生活に生かしていきたいと思います。

# オーストラリアで学んだこと

## No.9 西仙北東中学校 進藤亜矢子

私が学校の先生に「オーストラリア研修に行ってみないか」とお話をいただいたのは去年の夏でした。親に聞いてみたところ、私が行きたいのなら行っても良いということでした。先生に自己推薦用紙をもらい書き始めましたが、初めてのことで用紙いっぱい書くことは大変でした。市内から20人ということで、それよりもたくさんの方が応募すると、この推薦書で行けるかどうかが決まるということなので緊張しました。行くことができるようになったのは秋になってからのことで、知ったときはとても嬉しかったです。

事前学習会では、入国カード等の書き方・機内や税関、買い物をするとき等の会話・ファームステイについてなどを勉強しました。

### 『研修日記』

#### 1日目 1月3日

私は飛行機に乗るのが初めてだったので、空港での手続きは少し緊張しました。離陸の時は足下に響くような感じがありました。上昇したり旋回したり下降したりしたときは、ドキドキして楽しかったです。窓から見える景色はとてもきれいでした。そして機内食もおいしかったです。

#### 2日目 1月4日

午前中は、ロッジのスタッフの方から周辺の植物の説明をしてもらいました。日本では見ることのできないものや、毒を持ったものもありました。

午後からは、ホストファミリーの迎えでファームステイ先へ行きました。迎えにきてくれたのはステイ先のお父さんでした。家ではお母さんが待っていてくれました。ふたりとも優しく感じ安心しました。



左：Carmelさん(お母さん) 中：Johnさん(お母さんの双子の弟)  
右：Bobさん(お父さん)

家の外に案内されて行くと、牛の解体をされていてびっくりしました。その後は家にあるプールで遊びました。日本から持参したお土産(急須・湯飲み・箸)を渡すと、とても喜んでくれて嬉しかったです。夕食は、ミートソースのパスタにチーズを混ぜたものでした。デザートには、バニラアイスにマンゴーシャーベットを乗せたものを食べました。とてもおいしかったです。

### 3日 1月5日

「ショッピングへ行こう」と誘われ出かけました。車の窓からたくさんの風車が見えました。風力発電用だと言っていました。途中無人販売の果物屋さんから、バナナやスイカをたくさん買いました。スイカは1玉\$4(約320円)で、日本と比べると安いなあと思いました。その後は森に行きました。たくさんの大きな木・滝・すごく深い穴がありました。昼食は、カンガルー肉のバーベキューでした。特にクセもなくおいしかったです。スイカも食べました。スイカの皮に縞模様はなく、水分も少なめで日本のものとは少し違いました。午後からは、鉱石店・雑貨屋・スーパーに連れて行ってもらいました。鉱石店では、お母さんに鉱石の板をプレゼントしてもらいました。

スーパーでは次のことに気づきました。

- ・お店が大きい
- ・かごがない(大きいカートに直接商品を入れる)
- ・お肉は量り売り
- ・魚はあまり売ってない(薄くスライスしたサーモンは見た)
- ・甘いお菓子が多い
- ・冷凍食品の袋が大きい(量が多い)
- ・レジはベルトコンベアにお客さんが商品に乗せて店員さんがバーコードを読み込む
- ・袋詰めは店員さんがレジ横のバーにかかった袋に入れてくれる
- ・エコバッグを使っている人が少ない

夕食の時に、“チョコ”という緑の野菜を食べました。カボチャに似た薄い味がしました。

### 4日 1月6日

今までファームステイに来た人たちの、住所・メッセージが書いてあるアルバムに、私たちも住所などを書きました。厚いアルバムが4、5冊あり、見てみると高校生ばかりでした。

昼食に日本から持参したそうめんを作りました。菜箸やざるがなく、日本とは勝手が違い少し大変でした。でもおいしいと喜んでいただきうれしかったです。以前に来た人たちも箸をあげたらしく、たくさんありました。だからか、ホストファミリーのみなさんは箸の使い方が上手でした。

夕方牧場に行き、搾乳しているのを見ました。その後に子牛を見せてもらいました。昨日生まれたばかりの牛もいました。生まれた牛がメスだと生かし、オスだと殺してしまうそうです。

帰ってきてから、鶏の卵を採りに行きました。鶏は、近くに行っても全然寄ってきませんでした。

夜は、習字や折り紙をしました。私はカエルなどを折りました。できたものをホストファミリーに見せると、喜んで冷蔵庫に飾ってくれました。

### 5日 1月7日

朝、ホストファミリーとお別れをしました。とてもよくしてくれたので、もっと一緒にすごしたかったです。

その後、ロッジから徒歩で30分ほどのチーズ工場へ行きました。

午後からは、オーギーキッズと遊んだりして楽しかったです。オーギーキッズはすごくパワフルでした。

夜、滝の近くにツチポタルを見に行きました。青白く光っていてきれいでした。ツチポ

タルは、光に当たると死んでしまうそうです。生育条件は、1. 直射日光が当たらない  
2. 風が吹かない 3. 水(滝)がある だそうです。

## 6日目 1月8日

船に乗ってグリーン島に行きました。島に近づくほどに、海がきれいなエメラルドグリーンになっていきました。グラスボトムボートという、足下がガラス張りの船に乗って、魚や珊瑚を見ました。黄色や青色の魚などがたくさんいてきれいでした。ウミガメを見ることもできました。(写真右下にウミガメがいます)



昼食後に、海に泳ぎに行きました。足が着かなくなるのは、割と砂浜から近いところでした。小さな貝や珊瑚がたくさんありましたが、国立公園なので持ち帰りは禁止だそうです。

## 7日目 1月9日

午前中は、キュランダ鉄道に乗りました。

カーブでは、1両目の写真がよく撮れました。

到着したキュランダ村では、コアラ抱っこ写真を撮りました。猫の爪のような鋭い爪が痛かったけれど、コアラはかわいかったです。コアラは、1日30分しか働かないそうです。



ここでは、お土産も買いました。日本人の店員さんも多かったです。(後で行ったケアンズ市内も、日本人の店員さんが多かったです。)

## 8日目 1月10日

帰りの飛行機は深夜出発だったのであまり眠れず、疲れました。仙台空港に着いたときから寒く、日本に帰ってきたなあという感じがしました。

## 研修テーマ

『多くの人に環境に対する意識を高めてもらうには

どうするべきか?』

私は、現在世界規模で問題になっている環境問題について、日本とオーストラリアを比べて、どうすれば多くの人が地球に優しい生活をするようになるか考えてみました。

### \*水資源\*

オーストラリアでは水不足なので、節水に対する意識は高いようでした。最初の人がお湯をたくさん使ってしまうと、後の人が使う際お湯が出なくなってしまうため、シャワー

でお湯を使うのは合計で1人4, 5分といわれました。日本でも夏や暖かいときは、水不足でなくてもシャワーの使用時間を短くするように心がけてみるといいと思いました。

### \* 買い物 \*

スーパーでの買い物の際、日本のようにエコバッグを使っている人は少ないようでした。大量に買い物をしている人が多かったので、毎回レジ袋をたくさん使用するのはいらないと思いました。

### \* ゴミ回収 \*

家庭ゴミは指定のゴミの日に、大きいゴミ箱に入れて道ばたに出すそうです。新聞が定期購読ではないので、ちり紙交換や古紙回収はないそうです。

### \* ゴミの分別 \*

日本のように、燃えるゴミ・ペットボトル・びん・缶(アルミ・スチール)・プラスチックなど、細かく分類はされておらず、燃えるゴミ・資源ゴミなど、おおまかな分別でゴミ箱が置かれていました。

## 日本



## オーストラリア



## まとめ

オーストラリアの人々にならい、日本でも、シャワーのお湯を使う時間を、4, 5分にすると良いと思いました。冬場などの寒いときは大変なので、夏場や暖かいときに限定しておこなうとよいと思います。また、ゴミの分別は日本の方がきちんとしているので、これからも継続したいです。

すぐに多くの人に実践してもらうのは難しいと思うので、まずは自分の周りの人から、たとえば家族に、今回学んだことを伝えて、実践してもらえるようにがんばりたいです。

7泊8日の海外研修の中でたくさんのことを学ぶことができました。ホストファミリーと英語で会話もできてよかったです。今後は、今回学んだことを生かして多くの人のためにできることを考えていきたいです。

## 「きれいな大仙市にするためにはどうすればいいのか？」

No.10 大仙市立西仙北西中学校  
第2学年 加藤 康平

### 1. テーマの設定について

僕の今回の海外派遣研修における研究テーマは「きれいな大仙市にするためにはどうすればいいのか？」というものです。

テーマの設定理由は、僕の暮らしている大仙市ではポイ捨てがとても多いと思ったからです。ポイ捨てされたゴミを見つけると不快な気持ちになります。僕の通っている西仙北西中学校は自然が豊かで、一見よい環境にあるように思えますが、春と秋に行う学校付近のクリーンアップでは、たくさんのゴミが集まります。不思議なことに毎年同じくらいの量が集まります。つまり、ポイ捨てされているゴミの量は減っていないということです。マナーの問題もあると思いますが、ゴミに対する意識は国が違うとどのように違うものか知りたくなりました。そして、今回海外研修の機会に恵まれオーストラリアに旅立ちました。



### 2. 個人テーマの追究について

#### ① 現地での聞き取り

マンガリーフォールズで、僕は自分の研究テーマであるゴミ問題について、現地日本人スタッフのたいと泰斗さんに質問をしました。

**質問1** オーストラリアでは、ゴミの収集でどんな工夫をしていますか？

**回答1** 缶、ペットボトル、紙、それぞれ分けて捨てます。生ゴミは埋めません。

**質問2** オーストラリアでは、ゴミ拾いなどの活動をおこなっていますか？

**回答2** オーストラリアの人はゴミを出さないようにしています。

確かにオーストラリアのほとんどの場所では、大きな通りの道端にはゴミが落ちていないように感じました。なぜなら道路には50メートルから80メートルの間隔でゴミ箱が設置されているからです。しかし、ケアンズ市内には、ゴミが落ちていました。ゴミ箱がいっぱい設置されているのにポイ捨てをしているのはなぜなのか考えさせられました。



分別して捨てます



道路脇のゴミ箱



## ② 大仙と比較して

僕たちの大仙市では、ゴミ袋の代金にゴミ処理費用の一部が加算されていて、ゴミを出す人も処理費用を負担する仕組みになっていますが、オーストラリアでは、あちこちにあるゴミ箱に自由に捨てられるようなので、ゴミ処理の費用はどうなっているのか疑問に思いました。自然保護活動が盛んなオーストラリアなので、ゴミ問題についても先進的な国に違いないと思っていましたが、日本に帰ってきてから調べたところ、オーストラリアでゴミの分別が始まったのは、日本よりも遅かったということがわかりまし



ケアンズ市内のゴミ

た。また、日本ではゴミ収集車に人の手で積み込みますから、分別がしっかりされているか一応チェックできますが、オーストラリアのゴミ収集車にはロボットアームがついていて、人の手を介さずに収集するため、しっかり分別されていない場合もあるようです。それでもあまり大きな問題にならないのは、ゴミの96%が埋め立て処理、1%が焼却処理、3%がリサイクルというように、焼却施設にあまり負担がかからない状況になっているからかもしれません。分別に関しては日本より少し甘いということがわかりました。

## ③ 大仙市をもっときれいにするには

オーストラリアと比較して、大仙市で実施できることはどんなことがあるか考えてみました。

- |                                 |
|---------------------------------|
| ① 道路にゴミ箱を設置する。 ② ゴミ拾い活動を定期的に行う。 |
|---------------------------------|

ただ、①についてはゴミ管理の問題が起きそうなので、その対策も考えなければなりません。②は地域ごとや学校単位などで、みんなの意識向上もねらって行うことができればいいと思います。

## 3. 旅行記

### <1日目>

初日の朝は、出発が早くとてもきつかったです。大曲から仙台までバスで移動し、仙台空港からは飛行機でグアムまで行きました。飛行機に乗ったことはありますが、長時間乗ったのは初めてだったので、とても疲れました。飛行機から下を見てみると、町や仙台空港がとても小さく見えました。

機内食は、野菜、パン、肉などバランスがとれた食事でした。グアム空港に到着したら、日本の冬とは程遠い気候でむし暑かったです。

グアムからまた飛行機を乗り継いでオーストラリアに向かいました。やっと着いたと思ったら向こうは深夜で、とても眠かったです。

空港からマンガリーフォールズにはバスで移動しました。宿泊先のロッジには、日本と違いお風呂がありませんでした。しかも水資源を大切にするため、シャワーは5分以内で済ませるというルールでした。

## <2日目>

いよいよホストファミリーの方々と対面です。僕がお世話になったのは、ペルグレイブ・ジョンさんと奥さんのダイアナさんです。

「どんなことが待っているのだろうか？」という期待と「ちゃんと英語はしゃべれるのだろうか？」という不安でいっぱいでした。

早速家に向かうと思いきや、ドライブがてら「ミラミラ・フォールズ」という滝を見に連れて行ってくれました。すごい迫力でした。家に着くと僕達が泊まる部屋に案内してくれました。部屋はとても広く、エアホッケーもありました。

初日の夜は、自家製のミートパイをごちそうになりました。ナイフとフォークは使ったことがなかったので、食べづらかったです。でも、味は最高でおいしかったです。こうして、ホームステイ初日を終わりました。



ホストファミリーと一緒に

## <3日目>

ペルグレイブ家にあるプールに入りました。驚いたことにプールの水が海水でした。その後は、家の手伝いをしました。主に、食器を運んだりナイフとフォークを並べたりしました。

ドライブにも出かけました。公園ではバーベキューをしながらハンバーガーを作りました。そこには、なんと「ワラビー」がいました。えさをあげると舌でペロペロと舐めて食べていました。その姿がとてもかわいかったです。

## <4日目>

ドライブがてらお土産屋に行き、友達へのプレゼントを買いました。近くにはアボリジニの資料館があり、中にはブーメランが展示されていました。真ん中にぼっかり穴があいた不思議な物も展示されていました。

夜には、ジョンさん、ダイアナさんと「UNO」をしました。ふたりはルールがわからない僕に優しく教えてくれました。勝った時は、とても嬉しかったです。こうして、ホームステイ最後の夜が終わりました。

## <5日目>

朝食をごちそうになり、ついに別れのときがきました。常に、僕達のことを考えて優しく接してくれた家族と別れたくありませんでした。

## <6日目>

マンガリーフォールズをあとにした僕たちは、バスで港に移動し、いよいよグリーン島に向けて船に乗りました。この日は、とても暑くて大変でした。グリーン島では最初に、足元がガラス張りになっている小型の船に乗りました。なんと、幸運にもウミガメを見ることができました。とても可愛かったです。他にも、見たことのない魚をいっぱい見ました。

昼食を食べたあとには、グレートバリアリーフで泳ぎました。



コロニアルクラブリゾート

僕はあまり泳げないので、近くにいた魚をずっと見ていました。驚いたことに、警戒心が全くないのか、逃げないで僕に寄ってきました。

グリーン島をあとにして、夜はケアンズ市内のコロニアルクラブリゾートに宿泊しました。部屋はとても広く、ベッドは大小2つあったので、争奪戦が始まりました。その結果、僕は負けて小さいベッドに寝ました。ホテルには、国際電話をかけられる公衆電話がありました。お金がかかるとはいえ、家族の声が久しぶりに聞きたいと思ったので電話をしました。日本を離れて6日しかたっていないのに、家族の声を聞いたら妙に安心してうれしくなりました。これもとてもいい経験でした。



国際電話がかけられます

## <7日目>

私たちは、「世界の車窓から」で有名なキュランダ鉄道に乗りました。ゆったりとした速度で列車は進み、途中途中で見える滝などは、ものすごい迫力でびっくりしました。

列車を降りた後、アボリジニが披露するダンスを見ました。色々なダンスがある中で、アボリジニロックンロールが特に面白かったです。途中でいきなりステージに誘われ、あがって一緒に踊りました。

ケアンズ市内に戻った私たちは、町を散策しました。ナイトマーケットに興味があったので行って見ました。お土産など、民芸品が低価格で売られていました。夕食は、ラーメンを食べました。散策しているうちに方向がわからなくなってしまい、30分位さまよいました。



キュランダ鉄道

## 4. 番外編

### ① オージーキッズとの交流

オージーキッズとのレクリエーションもあり、色々な遊具を使って遊びました。特に、泥に飛び込むときは勇気がいりました。夕食を一緒に食べた後、マジック、歌などを披露しました。僕たち大仙チームは、「ふるさと」を歌いました。皆、とても喜んでくれたので嬉しかったです。

また、オージーキッズからはオーストラリアのダンスを習いました。ダンスはテンポがとても速く覚えるのに時間がかかりましたが、一生懸命覚えめました。短い時間とはいえ、とても楽しかったです。

### ② びっくり仰天

Best 1 家にプールがある！ しかも海水！！（日本のプールの感覚とは違います。）

Best 2 公園にワラビーがいる！（小さくて、エサを食べる姿がかわいかったです。）

Best 3 グラム空港にラーメン屋がある！（コシがあってとてもおいしかったです。）

## 5. 研修を終えて

僕は、今回初めて外国に行きました。姉も中学生のときにこの海外研修の経験があり、オーストラリアでの楽しかった思い出などを聞いて憧れがありました。海外派遣生に選ばれたときは、とても嬉しかったです。様々な期待と不安がありましたが、これまでにないとてもいい経験になりました。

# オーストラリアの生活から学んだこと

NO. 11 中仙中学校 佐々木 公佳

## I はじめに

私が海外研修に申し込んだ理由は、私の父が海外出張から帰ってきた時にとっても楽しそうにいろいろなことを話してくれるのを聞いて、私も海外に行っているいろいろなものを見てみたいと思ったからです。この研修を通して日本とオーストラリアのちがいを知り、日本でもオーストラリアの良いところを取り入れ、少しでも生活や考え方を変えていきたいと思い、この研修に申し込みました。

## II テーマ設定の理由 「大仙市がもっと水を大切にしていけるにはどうすべきか」

オーストラリアの水は高いという話を聞いたことがあります。私は、日本もオーストラリアも同じ島国なのにどうして水の値段や価値にちがいがあるのか、とても気になりました。日本には水が豊富にありますが、オーストラリアでは雨がほとんど降らない地域もあり、水がとても貴重だと聞きました。そこで、オーストラリアでは高い水をどのように使っているのか、実際に行つて自分の目で調べて来たいと思いました。そして、調べたことを伝えることで、少しでもみんなが水を大切にしてくれたらと思い、このテーマを設定しました。

## III 調べた内容

### 1 オーストラリアと日本の水のちがい

#### (1) 飲み水について

日本では水道の水を当たり前のように飲んでいますが、オーストラリアでは水道水は飲まず、タンクに入っている水を買ってきて飲んでいました。飲んでいたと言っても、飲む回数も少なく、ホームステイ先の家庭ではほとんど水を飲んでいませんでした。買ってきた水は、日本の水と比べると少しだけ濁っており、少し匂いがして、飲むときにちょっとだけ不安になりましたが、味は日本の水とあまり変わりはありませんでした。

#### (2) 生活用水について

日本では浄水場で作られた水が水道から出てきますが、ホストファミリーの家では川からポンプで水を汲み、パイプで家に運び、その水をタンクにためて使っていました。つまり、家の蛇口から出る水は川の水です。野菜や動物たちにあげる水も、食器洗いや洗濯、シャワーに使う水も川から汲んだ水を使います。川の水が少なくなったときはお金を払って水を買うしかないそうですが、これまでそういうことはほとんどなかったそうです。だから、水道代は払わなくてもよいそうです。



もちろんお金を払って水道を使用している家庭もあるようですが、飲み水用、生活用、酪農用と水を使い分けており、酪農用には消毒処理がほとんどされていない水を使うそうです。

### (3) 水の値段について

日本では水よりもジュースの値段のほうが高く、秋田ではわざわざ水を買って飲むことはあまり一般的ではありませんが、オーストラリアではジュースよりも水のほうが高く、とても驚きました。実際の値段を調べてみると、オーストラリアではオレンジジュースやソーダ（1000ml）は約1\$（日本円で約80円）ですが、水（600ml）は1.5\$～2\$（日本円で約150円）もするそうです。日本ではジュース500mlで150円、水は100円くらいで売られている場合が多いと思います。オーストラリアでは水がとても貴重だということを実感しました。



ごはんを食べる時の飲み物も水ではなく牛乳やジュースでした。



## 2 オーストラリアの家庭での節水方法

### (1) シャワーについて

日本では湯船にお湯をためて浸かり、その他にシャワーも使って入浴しますが、オーストラリアではシャワーだけで、使用時間が4分程度と決められていました。これは政府が国民に推奨している時間だそうです。そんな少しの時間で頭や体を洗えるか心配でしたが、シャワーを止めながら洗えばいいだけのことでした。

### (2) 洗濯について

日本ではほとんどの家庭で毎日洗濯をしますが、ホームステイ先では洗濯物が少ない日は洗濯をしないで、洗濯物が溜まったらまとめて洗っていました。もちろん、節水のためでした。

### (3) 食器洗いについて

食器を洗うときは、あらかじめためておいた水で食器を洗っていました。使う水を最小限におさえるために、ためておいた水もくりかえし使っていました。日本のように水道を出しっぱなしで洗うことはほとんどありませんでした。

## 3 オーストラリアと日本の水に対する意識

### (1) オーストラリアの水問題と国民の意識

オーストラリアの人たちは水が不足していることを理解し、みんなが水をとても大切に使っていました。ホストファミリーに「どうして水は大切なのですか」と聞いたところ、「生きるために水は必要不可欠で、日常生活でもいろいろと使うから水は大切にしなければいけない。」と言っていました。

なぜ、こんなにオーストラリアの人が水を大切にしているかということ、オーストラリアでは過去に降水量がとても少なくなり、大変な水不足に陥った時期があったからだそうです。その時は政府が水の使用量を厳しく制限したそうです。もちろん雨が降らないので作物も育たず、オーストラリアの人々はとても苦しい生活を送ったそうです。それを機にオーストラ

リア政府は水対策に力を入れるようになり、現在もそれは続いています。降水量が少なく乾燥した地域が多く、酪農でたくさんの水が使われることから、今も水が不足しているそうです。このような厳しい経験や水不足への危機感があるからこそ、オーストラリアの国民一人一人が水を大切にし、水不足を解決しようと努力しているのだと思いました。

## (2) 日本人と水

日本に帰ってから祖母に、昔は水をどのように使っていたのか聞いてみました。すると、物心ついた頃から家に水道が引かれていて、これまで水不足で困った経験はない、ということでした。私もこれまで水がなくて困った経験はありませんし、ニュースや新聞などでもあまり見聞きしたことがありません。今の日本ではエコに対する関心が高まっていますが、水がその対象になることはあまりありません。多くの日本人は水がなくて困った経験をしたことがないため、水を大切に必要性を感じていないのではないのでしょうか。

しかし、これでいいのでしょうか。「今は必要がないからやらない」ではなく、将来困らないために今から取り組んでいくべきではないかと思えます。

## IV まとめ

日本は水が豊富にあるからといって使いすぎているところがあると思います。豊富にあるからいいと考える人もいるかもしれませんが、突然、水がなくなるかもしれません。雨が降らなくなり、植物や農作物が育たなくなるかもしれません。植物も動物も水を必要としています。それなのに今の日本人は自分たちの都合ばかり考え、水を必要以上に使いすぎています。

私たちは今までどれだけの自然を壊し、動植物たちの住処や食べ物を奪ってきたのでしょうか。壊してしまった自然は簡単にもとには戻りません。また同じ過ちを繰り返し、今度は自然から水を奪ってしまったらどうなるのでしょうか。植物は枯れはて、動物達は死んでしまいます。水がなくなってから行動しては遅いと思います。そうならないためにも、人は水を好き勝手に使ってはいけないと思います。オーストラリアのようにみんながもっと水の大切さを理解し、大事に使っていくべきだと思います。

そのためには、オーストラリアなど水不足で困っている地域の現状を知り、そこに住む人たちの工夫を早い段階から取り入れていく必要があるように思います。今回私がこの研修で学んだことをより多く人に知ってもらい、日本人たちも水問題を真剣に考えて欲しいと思います。

それを実現するため、まずは私自身がしっかりと水の大切さを理解し、毎日少しでも節水を心がけ、学校のみならずにも水の大切さや節水方法を伝えていきたいと思います。そして、学校のみならずから家族へ、家族から親戚へなど、どんどん水を大切にしていける心が広がっていったらと思います。

## V オーストラリアでの思い出

### 1 驚きのホームステイ

私がお世話になったホームステイ先では、たくさんの発見や驚きがありました。

まず、家がとても大きくて広いということです。そして、家の中にプールもあって、とてもびっくりしました。

庭も広くて、見たことがない植物があり、パイナップルやパッションフルーツ、パパイヤ、スターフルーツなど、いろいろな果物も実っていました。豚、にわ



とり、あひる、犬、鳥（インコやオウム）などの動物もたくさんいてとてもにぎやかでした。特に鳥の種類と数が多くてびっくりしました。全部で20羽ぐらいはいたと思います。犬も大きくて迫力がありました。

私は動物が大好きなので、動物や植物に囲まれた暮らしをとてもうらやましく思いました。一度でいいので、このような生活をしてみたいです。きっと毎日にぎやかに楽しく暮らせると思います。



## 2 マンガリーフォールズでの思い出

マンガリーフォールズという自然の家で、現地のオージーキッズと交流するプログラムがありました。一緒にいかだを作って競走をしたり、障害物競走をしたりしました。みんなで協力して作ったいかだが沼に浮かんだときはとても感動しました。障害物競走では、高い壁を協力して越えたり、おたまじゃくしとカエルだらけの池をロープで飛び越えたり、そして最後には沼に飛び込んだり…。本当にいろいろなことをしました。夕食を食べたあとはみんなでダンスを踊りました。とても盛り上がりすぎて本当に楽しかったです。オージーキッズと別れるときはさびしかったけれど、笑顔で見送ることができました。ツチボタルや今までに見たこともないくらいきれいな星空にも感動しました。

うまく言葉で話すことはできなくても、なんとなくお互いの言いたいことが伝わり、とても楽しい時間を過ごすことができました。たった1日という短い時間でしたが、オージーキッズと心を通わせることができ、とてもうれしかったです。

## VI 海外研修を終えて

今回の海外研修を終えて、私は日本がどれだけ水を無駄遣いしていたのかあらためて実感させられました。このレポートを見た人が少しでも水の大切さを知ってくれたらうれしく思います。たくさんの人に水の大切さを伝え、自分も水を大切に使う努力をしていきたいと思っています。

オーストラリアの人たちは自然をととても大事にしている、手つかずの自然がたくさんありました。絶滅動物の保護、水問題へのオーストラリア国民全員の努力など、私たちが見習うべき点がたくさんありました。日本でもエコへの取り組みや環境保全活動など、様々な努力をしています。日本はきれいな水や森林などの自然が豊かで、とても恵まれている国だと思います。でも、私たちはそのありがたさに気付いていません。だから、オーストラリアの取り組みから多くのことを学び、国民一人一人が水の大切さや自然のありがたさについて真剣に考えていく必要があると思います。

この研修に参加するにあたり、私はたくさんの人たちにお世話になりました。大仙市職員の方々や先生方、家族、オーストラリアの方々、部活のチームメイトなど、本当に多くの人たちの協力を得て私はオーストラリアに行くことができました。このことを忘れず、感謝の気持ちをもって今後も生活していきたいと思っています。自分が学んできたこと、経験してきたことを生かし、少しでも誰かのために行動できるようになりたいと思いました。本当にどうもありがとうございました。

# オーストラリア研修を終えて

No.12 中仙中学校 2年 高橋 幸代

## I はじめに

私が今回の海外研修に申し込んだ理由は、外国の人と交流を深め、日本とオーストラリアのちがいを比較して外国の良さをたくさん知りたかったからです。昨年、私は総合的な学習で国際教養大学を訪問し、外国の文化について勉強しました。日本とまったくちがう習慣や考え方にとても驚きました。そして、「もっと外国について知りたい」「実際に行って見てきたい」と思い、この研修に申し込みました。

## II テーマ設定の理由 「私たちの食生活をよりよいものにするためにはどうすべきか」

私は今、外国の文化の中でも特に食文化に興味があります。私はよくファミリーレストランに行きますが、そのメニューはほとんど洋食で、欧米の料理はもうすっかり日本に定着しています。そこで、外国では実際にどんな料理が食べられているのか、自分の目と舌で調べてきたいと思いました。また、食事内容だけではなく、食事の仕方や食事に対する人々の意識などについても調べ、オーストラリアの文化についての知識を広げたいと思いました。

## III 調べた内容

### 1 オーストラリアと日本の食文化のちがい

#### (1) ホームステイ先で食べた料理の紹介



#### 《1日目の夕食：ステーキとサラダ》

とても量が多かったです。ステーキがメインでパンなどはありませんでした。肉はちょっと日本のものよりも硬かったです。アボガド以外の野菜はすべて生で、大きめに切られていました。



#### 《2日目の朝食：トーストと目玉焼き、ベーコン》

日本でもよく見かける朝食で、味もほとんど変わりませんでした。少しベーコンの油が多かったように思いました。



#### 《2日目の昼食：カンガルーのハンバーガー》

これはカンガルーの肉を使ったハンバーガーです。スーパーでカンガルーのハンバーグが売られているのだそうです。初めて食べましたが、厚みがあって柔らかかったです。ケチャップかバーベキューソースをかけて食べます。中にバターが塗られていました。パンはふわふわでした。





### 《2日目の夕食：肉と野菜》

柔らかい肉で、チャーシューのような感じでした。じゃがいもは甘くておいしかったです。ブロッコリーもカボチャも日本と同じ味でした。



### 《3日目の昼食：トーストとスクランブルエッグ》

パンにはバターを塗って食べました。卵の中にはパセリのような野菜が入っていました。

## (2) 食事内容のちがい

オーストラリアの食事は、メインの肉料理と付け合わせの野菜というメニューが多かったです。一度も魚調理を食べることがありませんでした。スーパーマーケットの売り場も、肉コーナーは広いのですが、魚のコーナーは本当に少ししかありませんでした。野菜を食べる量も日本に比べると少なかったですが、きゅうりやパプリカなどは日本のものよりもサイズが大きくてびっくりしました。パンは日本と形や味などにちがいはありませんでしたが、たいてい朝と昼のみで、夜はおかずしか食べませんでした。日本人にとっては量が多く、少し油っぽく感じる人が多いのではないのでしょうか。また、品数も、一つの料理に使う材料の数も少なかったです。

## (3) 食器について

オーストラリアでは、ナイフとフォーク、そして大きい皿が1枚と日本とまったくちがった食器を使っていました。日本では料理に合わせて容器を変え、テーブルにたくさん並べますが、一人分の料理をすべて1枚の大きい皿に盛りつけていました。

もちろん、はしは使っていませんでしたが、日本からはしをもって行ってホストファミリーの方に使ってもらいました。初めて使ったとは思えないくらい、はしの使い方が上手でした。日本の食文化に少し触れてもらうことができるともうれしかったです。

## 2 日本がオーストラリアから学ぶべきこと

### (1) 食べ物のありがたさへの意識

オーストラリアの人たちは食べ物への感謝の気持ちがとても強いことに驚きました。ホストファミリーの家では食べる前に必ず『ありがとう。おいしく食べます。感謝します。』という内容のお祈りをして、食べ物に感謝の気持ちを伝えていました。

日本ではおなかいっぱい食べられることが当たり前で、それが普通だと思っています。でも、世界中には貧困のために食べるものがなく、栄養失調で亡くなってしまう子どもがたくさんいます。私たちもおいしいご飯が食べられることに感謝の気持ちをもつべきだと思います。

オーストラリアのお祈りの習慣を知り、感謝の気持ちを大切にしたいと思うようになった時、日本にも食べ物やそれを作ってくれた人に感謝する素晴らしい習慣、「いただきます」「ごちそうさま」がちゃんと存在していることに気がきました。考えてみると、私はこれまで「いただきます」や「ごちそうさま」をあまりしていませんでした。中仙中でも、給食のあいさつの声は小さく、給食を残す人もたくさんいて、心を込めてあいさつをしたり、感謝の気持ちをもって食事をしたりしている人は少ないと思います。これからは、まずは自分が学校でも家でも食事のあいさつをしっかり意識し、感謝の気持ちを大切に、それが少しずつ広がっていったらいいなと思います。

## (2) 自給自足の生活

秋田で農業と言えば米が中心で、大仙市には田んぼが広がっています。日本にとっての田んぼがオーストラリアでは牧場でした。お世話になったホストファミリーも酪農をしていて、広い牧場がありました。

そこで、牛の解体を見せてもらいました。解体する専門の人がいてどんどん牛を解体していました。牛の胃は大きくて中を切ってみると草がたくさん入っていて驚きました。とてもきつい臭いがしました。初めての体験だったのでびっくりしましたが、牛が私たちの食べる肉に変わる過程を見ることができていい経験になりました。



私はオーストラリアで、日本は自給自足の生活があまりできていないことを実感しました。日本の食料自給率は40%と低く、オーストラリアは173%だそうです。日本が自給自足せずに輸入ばかりに頼ってしまうと、日本の食べ物の良さがだんだんなくなってしまうのではないのでしょうか。

## 3 もっと日本が大切にしていってほしいこと

日本の食文化のよさは、野菜が多くバランスがとれているところだと思います。オーストラリアのような肉中心の食生活だと、肥満になりやすく、病気にもかかりやすいそうです。今日の日本では食の欧米化が進んでいて、給食でも肉料理や洋食のほうが人気ですが、もう一度、和食の良さを大切にすべきだと思います。

また、日本の料理は、品数がとても多く、食べることを大切にしていると思いました。家の人や給食センターの人たちなど、食事を作ってくれる人たちが私たちの健康を考えて、手間をかけて作ってくれていることをうれしく感じました。

## IV まとめ

私たちの食生活をよりよいものにしていくには、食べ物への感謝の気持ちと、自給自足を基本とした生活を大切にしていくことが必要ではないでしょうか。

今の日本、そして大仙市では、人々の食べ物に対する感謝の気持ちが十分ではないと思います。これまでの私のように、たいていの人は食べられることが当たり前だと思っていますが、実際に食べる物がなくて亡くなってしまふ人、今も食べ物がなくて困っている人が世界中にはたくさんいます。だからこそ、毎日食事を食べられることのありがたさに気付く必要があると思います。

そのためには、農業を経験してみるといいのではないのでしょうか。自分で食物を育て、自分が育てたものを食べることによって、食べ物に対するありがたさを感じることができると思います。学校などで農業を経験する機会がもっとあるといいのではないかと思います。

大仙市にはおいしい食物を作ってくれる農家がたくさんあります。給食にも地元中仙産の食材がたくさん使われています。食べ物を大切にする文化もあります。ただそれに気付かなかったり、忘れていたりするだけだと思います。食生活を通して大仙市、そして日本のよさに気づき、健康に、気持ちも豊かになれたらとても素敵だと思います。私はそれに気付くチャンスをいただき、とてもうれしく思っています。

## V エピソード

### 1 猛毒カエルケイントッド

今、オーストラリアでは、「ケイントッド」と呼ばれるカエルが問題になっているそうです。このカエルは害虫駆除のためにハワイから連れて来られたのですが、その後大量に増え、オーストラリアの生態系を壊しています。オーストラリアではこのカエルを減らそうと、国や州がたくさんのお金をかけて駆除しているそうです（しかし、オージー



キッズたちはこの恐ろしいカエルを、なんと野球のボールがわりにして遊ぶそうです!!)。

そのカエルは日本のカエルよりも大きく色が茶色で、背中から毒を出します。このカエルを食べた動物は毒で死んでしまうこともあるそうです。夜行性で、夜になると畑などからたくさん出てきました。このカエルのすごいところはとても丈夫で、投げられたり踏まれたりしただけでは死なないところだそうです。

ホストファミリーは、このカエルを少しでも減らそうと自主的にボランティアで駆除活動を行っていました。自主的に活動するなんてすごいと思いましたが、中仙にも『八乙女山を守る会』などの活動があり、地域を愛する気持ちはどこでも同じだと思いました。

## 2 日本の文化を紹介

ホームステイさせていただいたお礼もかねて、日本の文化を紹介してきました。私は小さい頃から書道を習っていたのでその経験を生かし、一緒に書道をしました。墨でホストファミリーみんなの名前と顔を書いてあげると、喜んでくれて、その紙を冷蔵庫に貼ってくれました。喜んでもらえてうれしかったです。

また、日本の食べ物を食べてもらいたかったので、日本からそうめんを持参しました。みんなで力を合わせて作りました。とても興味をもってくれて、たくさん食べてくれたので嬉しかったです。作ってよかったと思いました。

ところでオーストラリアにキッコマンがあったのにはびっくりしました。こんなにも醤油が世界に広がっているとは思いませんでした。思い出に残る時間でした。



これがホストファミリーに書いてプレゼントした、名前と似顔絵の絵です。

上に貼ってある、犬と猫も折り紙で折りました。みんなとても喜んでくれました。

## VI 研修を終えて

私はこのオーストラリアの海外研修に参加して、オーストラリアの文化についてたくさん知ることができ、すばらしい体験をさせていただきました。

コミュニケーションの大切さについても知ることができました。たとえ言葉が通じなくても、身振りや手振りなどのジェスチャーで自分の気持ちを伝え合うことができました。オーストラリアの人は相手の目を見て話します。それは相手に伝えたいという気持ちが強いからだと思いました。私もそれを見習い、伝える気持ちを大切にしたいです。

「積極的に取り組む」ことについては、特に自分の中で大きな変化はありませんでした。環境に変えてもらうのではなく、自覚をもたなければ変わらないと思いました。私は部活の副キャプテンをしていますが、これまでは人に頼ってしまう部分もありました。だから、これからは自覚をもち、自分から進んで行動していきたいです。この研修で学んだことを生かすことはもちろんですが、今まであまりできていなかった、この「積極的に取り組む」ということについても、今回の体験を良いチャンスにして頑張っていきたいと思います。そして今までとは違った自分をつくっていきたいです。

研修に参加するにあたり、事前研修や事後の報告会準備などでたくさんの先生方に助けていただきました。また、ホストファミリーの家族や現地の方に本当にやさしくしていただきました。お世話になった方々、研修に参加することを後押ししてくれた家族に本当に感謝しています。これからの生活では、皆さんに恩返しできるよう、「もっと大仙市をよくしていこう」という意識をもって生活していきたいと思います。本当にありがとうございました。



# オーストラリア海外研修で学んだこと

No.13 豊成中学校 阿部なな子

## I はじめに

私の兄は3年前、このオーストラリア海外研修で日本とオーストラリアの文化の違いについて学んできました。私はその時から「私もオーストラリアに行ってたくさんの事を学んできたい」と思っていました。そして今回、家族や学校の先生方のおかげでこの海外研修に参加することができました。初めての海外ということもあり不安や緊張もあったけれど、自分の決めたテーマについて見たり考えたりしながら、のびのびと研修に参加することができました。

## II テーマ設定の理由

私はテーマを「ごみをリサイクルしやすくするにはどうすればいいか?」としました。私の学校では、空き缶の回収・分別活動に取り組んでいます。最近日本では、このような活動に取り組んでいるところが多くなりました。オーストラリアではどうなのか知りたいと思いました。そしてオーストラリアの活動で参考になるところを自分たちの活動にいかしていければよいと考えました。

## III 調べた内容

私は次の2点に注目してオーストラリアのごみのリサイクルについて調べました。一つめはごみを減らすためにどのような取り組みをしているか、二つめはごみを捨てる場所はどうか、ということです。

### ① ごみを減らすための取り組みについて

最近、私たちはレジ袋を使わずにエコバッグを使ったり、割り箸を使わずに My 箸を使ったりしてごみを減らすようにしています。しかし、オーストラリアではかなり前からこのようなことに取り組んでいるそうです。例えば、ペットボトルを繰り返し使ったり壊れた物を修理して使ったりすることは、かなり一般的なことになっているそうです。もちろん、食事を残さず食べることは当たり前のことです。ホームステイ先の Ross 家でも自然にこのようなことは行われていました。

私たちは食事を残したり、すぐに捨てたりすることがあります。また、エコバッグも My 箸もまだ十分に広まっているとは言えません。見習わなければならないことだと感じました。

### ② ごみを捨てる場所

私は、以前ボランティア活動で地域のごみ拾いをしたことがあります。道端にたばこ

の吸殻や空き缶などがたくさん落ちていました。その時なぜこんなにゴミがたくさん落ちているのかと思いました。

オーストラリアではゴミが落ちていることはあまりありませんでした。日本と比べてみると、ゴミ箱がいろいろなところに置いてあり、人々がそれにごみを捨てていました。日本は外にゴミ箱が少ないので捨てる場所がなく、簡単にポイ捨てをしてしまうのではないかと思います。ゴミ箱にごみを捨てるという意識もまだ低いのかもかもしれません。

オーストラリアではゴミを捨てないからとても自然がきれいなのかも思いました。豊かな自然を守るためにもゴミを減らすこと、ゴミを簡単に捨てないようにすることは大切なのだと思いました。私たちもゴミを減らすよう努力したいと思いました。



#### IV テーマのまとめ

私がこのテーマについて調べてみて一番に思ったことは、オーストラリアの人たちが何気なくやっていることがエコやリサイクルにつながっているということです。ものをすぐに捨てないで、使えるものは繰り返し使う、簡単にゴミを捨てない、食べ物を残さないという当たり前にやっていることがリサイクルにつながり、さらにはオーストラリアの豊かな自然を守ることに繋がっているのだと思いました。

大仙市にも豊かな自然はたくさんあります。それを守るためにも、使えるものは繰り返し使い、ゴミを少なくし、住みやすい大仙市にしていきたいと思いました。オーストラリアのリサイクルへの取り組みを調べることにより、私たち自身の暮らし方について考えることができました。当たり前のことを当たり前に行う、これが何にも勝るエコ活動だと考えました。

今、豊成中学校生徒会では、「Can s Day」という日を設けて空き缶回収を行っています。しかし、それだけでなく、落ちているゴミを拾う運動などさらに活動を広げたいと考えました。私たちにできることはまだまだあると思うので、これからも積極的に取り組んでいきたいです。

#### V オーストラリアの思い出

##### ①ファームステイでの出来事

ファームステイで私たちがお世話になったのは Ross 家でした。Ross 家はマンガリーフォールズ学生村から車で20分の山の中にありました。家の周りには木と砂利道しかありませんでした。豊かな自然の中に建っているお宅でした。

## ☆Ross 家の家族☆

### 父：グレン

明るくとても陽気な人でした。一緒に散歩に行ったり泳いだりしました。

### 母：スー

マンガリーフォールズ学生村で働いています。料理がとても上手で、いつもおいしいご飯を作ってくれました。

### 長女：クリスタル

とてもクールでかっこいい中学3年生です。音楽を聴くのが大好きでした。とても大人っぽくて中学3年生とは思えませんでした。

### 長男：ダニエル

年が近かったのでたくさん話をすることができました。一緒に卓球をしたりゲームをしたりして、仲良くなることができました。

### ペット：ブレンディー(犬)・ティドゥース(猫)・トカゲ数匹・インコ数羽・ニワトリ数羽

犬のブレンディーとは一緒に散歩をしました。インコは肩に乗せることができました。インコは家の中に2羽、外に約10羽いました。多くの動物を飼っていることだけでなく、トカゲを飼っていることが驚きでした。



私は最初、会話ができるかどうかとても不安でした。しかし、Ross 家のみなさんは優しく話しかけてくれたのですぐに打ち解けることができました。

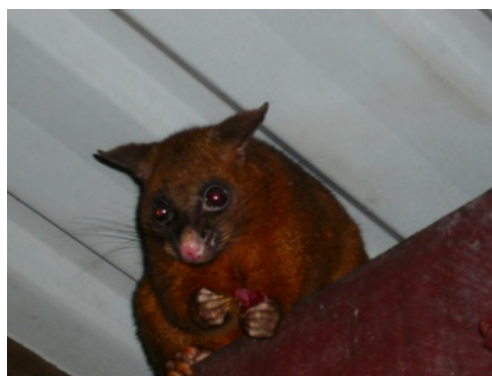
Ross 家には大きなプールがありました。私たちの周りにはないことなのでびっくりしました。家の中を案内してもらったあと、そのプールに入らせてもらいました。プールは思ったより深く、いちばん深いところで170cm ぐらいありました。グレンは潜ったりしてスイスイと泳いでいました。

1日目の夜、日本のお土産を紹介しました。大曲の花火のカレンダーや年賀状などを渡したところ、みんなとても喜んでくれました。その後、折り紙で鶴を折りました。最初はみんな苦戦していましたが、だんだん慣れてきて最後にはみんなばっちり折っていました。

2日目は近くの湖に行き、バーベキューをしました。私は、パンにバターを塗ってソーセージをはさんだものを食べました。クリスタルがみんなの分を作ってくれて、とても手際が良か



ったのでいつも手伝いをしているのだと思いました。ご飯を食べた後はみんなで泳ぎました。湖はとても深かったので泳ぐのが大変でした。私たちは浮き輪のようなものを使って浮いているだけで精いっぱいだったのですが、グレンとスーとダニエルは何も付けずに泳いだり潜ったりしていました。とくにダニエルはとても深いところまで潜っていました。泳ぐことはみんなの生活の一部になっているようでした。



帰ってからはダニエルとゲーム機で遊びました。ゲームソフトは日本と全く同じものがありました。ダニエルはとても強くてなかなか勝つことができませんでした。

夜に私たちは珍しい動物を見ました。それは「ポッサム」といって、夜行性の動物だそうです。近づいても逃げなかったので近くで見ることができました。グレンがあげたリンゴを食べているところがとてもかわいかったです。

3日目は再び家のプールで泳ぎました。水鉄砲やボールを使って遊びました。泳ぐのは3回目だったので、慣れてきてたくさん泳ぐことができました。天気が悪くなってきて長い時間遊ぶことができなかつたけれど、もう家族のみんなとすっかりうち解けました。

短い間でしたが、Ross 家の人たちと良い思い出を作ることができ、たくさんの貴重な体験ができました。一緒に行ったところもまだまだたくさんあります。全てとても興味深いところでした。心に残る思い出となりました。

## ② グリーン島でシュノーケリング

とても楽しみにしていたグリーン島では、シュノーケリングをしました。シュノーケルをつけて泳ぐだけでしたが、最初は泳ぎにくかったです。慣れてきて海岸からだいぶ離れたところまで泳いでいくと 70cm ぐらいの大きな魚やウミガメがいました。私は大きなウミガメを間近で見たことがなかったのでとても興奮しました。しかも距離が近かったので思わず追いかけてしまいました。とてもきれいな海でした。昨年修学旅行で行った沖縄の海やちゅら海水族館を思い出しました。



## VI 海外研修を終えて

今回のオーストラリア海外研修を通して、オーストラリアと日本の文化や自然の違いを肌で感じることができました。特にオーストラリアの自然はテレビなどで見てわかっていたつもりでしたが、そのスケールの大きさに圧倒されました。そして人々が自然とうまくつきあって生活していることを感じました。

また、コミュニケーションの大切さも知ることができました。言葉があまり通じなくても「相手に伝えたい」という思いがあれば、自分の気持ちは相手に伝わるということを実感しました。

何事にも勇気を出してチャレンジしていくことも大切だと思いました。この研修に参加すること自体が私にとって大きなチャレンジでした。出発する前は不安もありましたが、研修を終えた今は充実感でいっぱいです。きっと一生心に残ると思います。いつか自分の力で再び訪れ、Ross 家の人たちと再会したいと思います。

この海外研修で学ぶチャンスをくれたたくさんの人たちに感謝しています。これからはこの貴重な経験を将来の自分のために、また大仙市のためにいかしていきたいと思えます。



# MY AUSTRALIA LIFE

NO. 14 協和中学校 小田嶋 美和

## 1 オーストラリアに行ってみようと思ったわけ

6年前、私がまだ小学校2年生のときです。私のいとこと母がオーストラリア研修に行ってきました。日本に戻ってくると、2人とも「ホームステイやオーギーキッズとの交流がとても楽しかった」と話していました。その時から、いつかオーストラリアに行ってみようと思うようになりました。そして今年の夏、参加を申し込みました。

## 2 研修の日程

\*\*\* 1日目 2011/01/03(Mon) \*\*\*

この日は丸一日移動でした。  
ずっと座りっぱなしでとても疲れました。

\*\*\* 2日目 2011/01/04(Tue) \*\*\*

真夜中にケアンズ空港に到着。  
午後、ホストファミリーRossさんと面会。  
Rossさん一家はスー、グレン、クリスタル、  
ダニエルの4人。とても温かい家族で安心しました。

\*\*\* 3日目 2011/01/05(Wed) \*\*\*

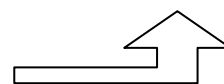
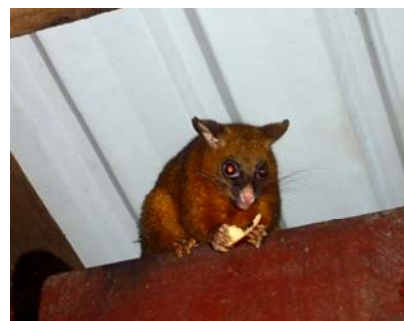
家族みんなでドライブをしました。その後、バーベキューをするために近くの湖へ。昼食後、湖で泳ぎました。その湖は一番深いところで20mを超えるそうです。発砲スチロールのような長さ1mぐらいの筒を股に挟み、なんとか浮いていられました。現地の子供たちはそばの木からダイブしていて、とてもたかましいなと思いました。

晩ご飯の後、外に出てみると、野生のポッサムが家の梁にいました。私は、初めてポッサムを生で見ました。

リンゴをおいしそうに食べているところです



↑ 日本からのお土産として折り紙を持っていき、一緒に鶴を折りました!



\*\*\* 4日目 2011/01/06(Thu) \*\*\*

この日は、朝からとてもいい天気でした。

ドライブに行って、その周辺を一望できる展望台に行きました。そこからはクイーンズランドで1番高い山が見えました。

午後は、Rossさんの家のプールに入って遊びました。しかし、途中で雷が鳴り始め、すぐに上がりました。

夕方には、ダニエルとゲーム機で遊んで、楽しかったです。



日本と全く同じものがありました。遊び方も一緒に、みんなで楽しめました。

\*\*\* 5日目 2011/01/07(Fri) \*\*\*

3日間お世話になったRossさん一家とお別れの日。とても寂しい気持ちになりました。Rossさん、本当にありがとうございました。

午後から、オージーキッズのみんなといかだ作りや障害物競走などで交流しました。泥まみれになったけれど、おもしろかったです。

お父さん：グレン  
お母さん：スー  
子どもたち：クリスタル、ダニエル  
猫や犬も一緒に住んでいます。



\*\*\* 6日目 2011/01/08(Sat) \*\*\*

快晴の青空の下、グリーン島へ。シュノーケルをつけて、海に潜りました。

そこで、小さな魚の群れや体長60cmくらいのとても大きな青い魚、模様がカラフルな魚などをたくさん見る事ができました。海は、エメラルドグリーンでとてもきれいでした。

グリーン島には、小さな飛べない鳥がたくさんいました。“クイナ”の仲間だそうです。

この日のディナーはステーキでした。とても厚くて(大体5cm くらい!!)、食べにくかったです。

グリーン島のきれいな海



&

白い砂浜

(日本とは比べものになりません。)

\*\*\* 7日目 2011/01/09(Sun) \*\*\*

午前は、キュランダ鉄道に乘りました。昔、「世界の車窓から」のオープニングでキュランダ鉄道の映像が流れていたそうです。そんな有名なキュランダ鉄道の車両は、70年前からずっと変わっていないと聞いて、びっくりしました。

その後、キュランダ村でアボリジニの踊りを見ました。

そして、コアラとワニの抱っこも出来て嬉しかったです。コアラは、思っていたよりも軽くて小さく、私の飼っている柴犬と同じくらいの大きさでした。

ワニは、1m くらいの赤ちゃんで、腹側は柔らかくフニフニしていました。

\*\*\* 8日目 2011/01/10(Mon) \*\*\*

真夜中にオーストラリアを出発。飛行機から水平線がきれいに見えました。

大曲に着いたのは、16:00 頃でした。



富士山も  
見えました!  
日本に帰ってきたな  
と改めて思いました。



### 3 自主研究テーマ

#### 「動物も人間も暮らしやすい環境とはどうあるべきか」

このテーマにしたのは、私は動物に興味があるからです。さらに、オーストラリアには日本にいない動物がたくさんいると聞いたからです。そんなオーストラリアと日本を比べてみたいと思いました。

まず、私が出会った野生の動物たちを紹介します。

- ・ ケイントット（毒がえる）
- ・ リーチ（ひる）
- ・ ポッサム
- ・ ワラビー
- ・ カメ
- ・ クイナ（飛べない鳥の仲間）

etc…

このほかさらに5種類くらいの動物たちと出会いました。

このように、たった1週間の滞在だった私でもこんなにもたくさん出会えるということは、それだけ身近に動物が住んでいるということです。



オーストラリアにしか住んでいない動物もたくさんいるそうですが、そのような動物が生きるためには、住みやすい環境が必要です。その環境をつくることは、とても大変なことだと思います。なぜなら、人間が暮らしやすい環境と動物が住みやすい環境というものは、必ずしも同じではないからです。日本では「人間が住みやすいように」と、土地を開拓して建物を建てたり、木材を得るために森林を伐採したりしてきました。そのせいで、すみかを失い、絶滅してしまった動物がいます。また、その動物をえさとしてきた動物も、食べるものを失い死んでいきます。人間は、植物や動物たちに支えられて生きていることを忘れてはいけません。だから私は、これからの生活で環境保護に力を入れていきたいです。オーストラリアを見習って、節水やゴミの削減を頑張ろうと思いました。具体的に言うと、お風呂の残り湯を洗濯に使ったり、いつもよりシャワーを使う時間を短くしたり、食べ物を残さないこと、リサイクルできるものは分別を徹底する、などです。

**私の結論 人間が動物たちの暮らしやすい環境をつくってあげることが大事。**

**“自分たちだけよければいい”という考えは絶対に持たない。**

**人間は動物たちに支えられて生きていることを忘れない。**

## **4 海外研修を終えて**

私は、オーストラリアに行って本当に良かったです。これまでの人生で最高の体験になりました。こんなにいい思い出になったのは、たくさんの方の力があつたからです。特に、Ross ファミリーには本当にお世話になりました。毎日おいしい料理をごちそうしてくれたり、色々な滝や湖に連れて行ったりしてくれました。そして、

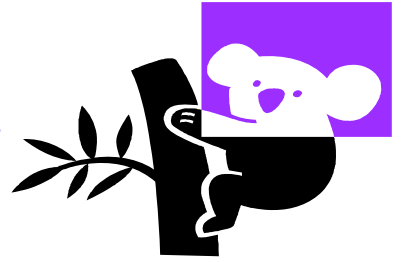
**1 週間も海外に行くことを許可してくれた家族のみんな、ありがとう。**

**海外研修を終えて、行く前よりも英語に興味を持ったし、授業が楽しくなりました。**

これからは、英語だけでなく、他の勉強にも力を入れていきたいです。

そして、いつかまた、オーストラリアに行ってみたいです。

# オーストラリア レポート



NO.15 協和中学校 佐川 志帆

## ★はじめに★

私は小学校低学年のころに、オーストラリアから来てくれた ALT の先生に、オーストラリアの良さをたくさん教えてもらいました。そのことと、生の英語に実際に触れてみたいという気持ちから、この海外研修に参加してみようと思いました。出発の日が近づいてくると、不安な気持ちがだんだんと大きくなってきました。しかし、一緒に行く友達や家族に励まされ、「精一杯楽しんでこよう！」という気持ちで当日を迎えました。

## ★マンガリーフォールズ★

私たちが滞在したマンガリーフォールズでは、オーストラリア特有の植物や動物を紹介してもらったりここでしか見られないというツチボタルを鑑賞したりしました。

私はそんななかでも、ユリシスという青い蝶がとても印象に残りました。この蝶には、「1回見ると幸せになれる、2回見ると幸せが元に戻る、3回見ると一生幸せになれる。」という言い伝えがあります。私は1回しか見ることができませんでしたが、キレイだったのでとてもいい思い出になりました。



これは野生の  
ワラビーです。  
感動しました！！

## ★ファームステイ★

左から2番目、カーメルさん

左から4番目、ボブさん

右から3番目、ジョンさん



滞在したファームステイ先の3人のホストファミリーはとても優

しく、私の不安を消してくれました。トランプに誘ってくれたり、一緒にショッピングに行ったり、楽しい4日間を過ごすことができました。最初は、言葉の通じない場所で暮らしていけるのかなと思っていましたが、積極的に話しかけてくれてすぐに溶け込んでいくことができました。ここで生活してみte感じたことは、食事の量が多いこと、シャワーの時間が1人4分と日本に比べて短いことで、最初はとても大変でした。そして家の敷地も広く、犬2匹、猫2匹、にわとりも飼っていました。初日に行ったときには牛の解体もやっていて、貴重なものを見ることができました。

このように充実したファームステイでしたが、そのなかでも一番印象に残ったのは、カエル獲りに行ったことです。オーストラリアにはとても大きなカエルがいます。このカエルは外来種で毒があります。そのためオーストラリアでは3億円もかけてこのカエルを駆除しているそうです。私の行った家でも、自分たちでカエルを獲って駆除していました。バケツに50匹以上入っていたので、少し鳥肌が立ちました。



最終日にはそうめんを作りました。ホストファミリーは箸の使い方が上手で、びっくりしました。

## ★オーギーキッズとの交流★

5日目にはオーギーキッズとの交流もありました。2チームに分かれて障害物競走をした時、言葉が通じなくても協力できて、無事ゴールすることができました。心がつながったような気がして、とても嬉しかったです。この後にやったダンスも楽しくて、最初会った時よりも距離が縮まった気がしました。

## ★キュランダ溪谷★

ここでは、キュランダ鉄道に乗り、世界遺産の熱帯雨林を見学しました。自然があふれていて、とても気持ちよかったです。



前の2両はペイントされていて、とてもキレイでした。

そしてこの後、コアラを抱っこすることができました。予想では、少しごわごわしているのかな、と思っていましたが、実際はすごく柔らかくて気持ちよかったです。でも、爪が鋭くて肩に刺さってかなり痛かったです。貴重な体験ができて一生の思い出になりました。



## ★自主研究★

### ◆私のテーマ◆

# ～自然環境をよりよくするためにはどうするべきか～

### ◆テーマ設定の理由◆

いま世界では地球温暖化が問題になっています。そこで、オーストラリアと日本では自然に対する考えがどう違うのか、また私たちでもなにかできることはないかと思い、このテーマを設定しました。

### ◆分かったこと◆

- 1、乾燥地帯がとても多いオーストラリアでは、水が一番の資源だということで、節水を心がけていました。
- 2、世界遺産となっている「グレートバリアリーフ」をなくさないために、二酸化炭素の削減を世界に呼び掛けているそうです。
- 3、私がお世話になったホームステイ先では、自分の家を出た生ゴミを飼っているにわとりに与え、ゴミとして出さずに環境に配慮していました。また牛のフンはリサイクルされ堆肥などに使われていると聞きました。

### ◆感じたこと◆

オーストラリアでは1人1人が環境にとっても気を使っています。それに比べて日本はどうでしょう。私達は、オーストラリアからたくさんの事を学ばなければいけないと感じました。

## ★最後に★

私はオーストラリアから帰ってきてから、買い物のときはECOバッグを持ち歩いたり、シャワーの時間を短めにしてみたり、歯磨きのときなど水を出しっぱなしにしないことを心がけるなど、自分にできることをやっています。小さいことですが続けていけば大きなことにつながっていくと思います。こんな取り組みを1人1人がすれば、自然環境をよりよくすることに近づいていくと思います。1人1人のすることはとても小さいですが、やってみようと思う気持ちが環境をよりよくするための第一歩だと感じました。

そして、人と関わっていくことの大切さも学びました。オーストラリアでは、ファームステイ先のホストファミリーやマンガリーのスタッフなど、たくさんの人たちと関わってきました。ホストファミリーに自分の言葉が通じたとき、ファミリーの伝えたいことが分かったときはとても嬉しかったです。そんな体験をして、人と関わっていくには自分から積極的に行動するべきだ、と感じました。

1週間の研修で、たくさんの貴重な経験ができました。このことを、学校生活や私生活で生かしていくことができるように努力していきたいです。また、家族や学校の友達、先生方に今回の研修で学んだことを伝えられるようにしたいです。

日本との違いに、驚き、感動し、とても充実した1週間でした！！

I had a good time!!

Thank you!!

# ☆オーストラリアの環境と生活☆

NO.16 協和中学校 照井 美美佳

## I はじめに

私が海外派遣事業に参加したいと思った理由は、小学校1年生と3年生のときに、オーストラリアからのホームステイを受け入れたことがあり、オーストラリアの生活に深く興味を持ったからです。また、生の英語を聞いて会話したり、異文化にふれたりしてみたいと思い、参加しました。

## II テーマ設定の理由 自然環境を守るにはどうすべきか？

今、世界では地球温暖化などの環境問題が起きているので、日本とオーストラリアの環境に対する意識はどう違うのだろうと思い、このテーマを設定しました。

## III 調べた内容

- ・節水の工夫
- ・ゴミ処理の工夫

## IV わかったこと

〈節水の工夫について〉

1. 入浴時間は1人約5分で、一人ひとりが節水に心がけている。
2. 台所では、節水できるように食器洗い機を使っている。
3. 植物の水やりや洗車には、水道水ではなく、ためた雨水を使って節水している。

乾燥地帯が多いオーストラリアは、水をととても大切にしている国でした。ロッジやファームステイ先での入浴時間は1人約5分間と、とても短く大変でした。また、食器を洗うときは、節水のできる食器洗い機を使っていました。オーストラリアでは、節水することが当たり前のように生活していますが、日本はそこまで節水に対する意識は高くないので、これを機会に、私も毎日の生活の中で節水することを心がけたいと思いました。

〈ゴミ処理の工夫について〉

1. リサイクル
2. ゴミを出さない

右の写真は、ファストフード店の前においてあるゴミ箱です。ペットボトルのゴミ箱は、日本のコンビニエンスストアと同じように、キャップと容器を分別して捨てるようになっています。

また、私がお世話になったファームステイ先では、牛・犬・猫・インコ・オウム・にわとり・アヒルなどの動物を飼っているので、残飯は餌として使っているそうです。だから、生ごみがあまり出ません。

確かに、日本と比べてオーストラリアは、街のどこを見てもきれいでポイ捨てがありません。世界遺産の“グレートバリアリーフ”を守るため、二酸化炭素の削減を世界に呼びかけているということも聞きました。自分たちが率先して取り組んで環境を大切にしようという気持ちが行動にあらわれているのだと感じます。私たちがオーストラリアの人々から学ばなければならないことがたくさんあると思いました。



## V ファームステイでの出来事

私は、「ジャック」と「リンダ」の二人家族の家に3泊しました。日本の家とは比べ物にならないくらい大きくて、動物もたくさん飼っていました。

初めは、うまく話せるか不安で、緊張していましたが、ホストファザーとホストマザーが明るく優しくしてくれてリラックスできました。2人の英語を必死で聞き取りました。答えるときは単語だけで話しましたが伝わりました。文章でなくてもジェスチャーや単語の組み合わせだけでも通じ合えて嬉しかったです。



ホストファザーと、野生のカンガルーや滝を見に行ったり、スーパーマーケットにも連れて行ってもらいました。野生のカンガルーが、人間が暮らしているすぐそばにいるのを見たときはとても驚きました。そのため、交通事故で死んでしまうカンガルーもいるそうです。



家の庭がとても広かったので、毎日のように散歩をしました。そこには、大きな木や日本では見たことのない花などがたくさん咲いていて、ゆったりとした気持ちになりました。もう一つ、私が驚いたことは、飼っているにわとりの卵を孵化させてヒヨコを育てていたことです。右の写真は、ヒヨコが殻を破り、もう少しで孵化しそうなところです。こういう場面を見たのも初めてだったので、貴重なものを見ることができて嬉しかったです。



食事は、

朝食…主にシリアルと、トーストに目玉焼きをのせたもの  
昼食…石釜で焼いた自家製ピザ・魚のフライとフライドポテトなど

夕食…ステーキ・米(タイ米のよう)・マッシュポテト・ミートソースがかかったパスタなど

※飲み物は、毎日ジュース(水で薄めるもの)で、

デザートはバニラアイスにチョコソースをかけたもの

全部とても美味しかったのですが、量が多く食べるのが大変でした



ファームステイ最後の日には、ホストマザーがビーズでアクセサリーを作るのが趣味なので、私たちも一緒に作りました。色々な珍しいビーズがたくさんあって、とてもきれいにできました。夕食後に、日本からお土産として持っていった、折り紙や箸、シールをプレゼントしました。2人とも喜んでくれました。

3日間でしたが、オーストラリアの生活に直接ふれることができ嬉しかったです。

## VI 海外研修を終えて

私はこの海外派遣事業に参加して、とても素晴らしい体験をすることが出来ました。天気にも恵まれ、青い空・豊かな緑・透き通った海・固有の昆虫や動物たちなどの大自然を肌で感じる事ができました。また、オーストラリアの生活を通して、水不足という環境問題も実感できました。この貴重な体験を活かして、自分も身近なことから積極的にエコ活動などに取り組んでいきたいと思います。また、オーストラリアの人たちは、みんなフレンドリーで優しく接してくれましたが、もっと完璧な英語で会話が出来たら、さらに、コミュニケーションの幅が広がると思いました。

この研修を通して、オーストラリアという国が大好きになりました。機会があったら、もっと英語のレベルを上げて是非また行きたいです!!

この機会を与えてくださった、大仙市教育委員会のみなさん、学校の先生方、両親に感謝したいです。ありがとうございました。

# オーストラリアで学んだこと



No.17 仙北中学校 伊藤 梨紗

## ・はじめに

私が今回この研修に応募したのは、小学生の時この研修があることを知り、自分も中学生になったら行ってみたいと思ったのがきっかけです。また、自分の英語がどれだけ通用するのか試してみたいという気持ちもありました。そして実際行くことになって自分の夢が叶い、とてもうれしく思っています。

## ・自主研究テーマについて

私の自主研究テーマは、「**環境にやさしいゴミ処理はどうあるべきか?**」です。

### (1) 設定理由

今、中学校では「REVOプロジェクト」を行っていますが、自然を大切にしているオーストラリアでは、どのような活動が行われているのか知りたと思いました。また、オーストラリアではごみを埋め立てていると聞いて、日本の焼却方法とどちらが環境に良いのだろうと考えました。そこで、次の2つについて調べることにしました。

### (2) 調べた内容

- ・ごみの**分別**、**処理**について
- ・ごみの**収集**について



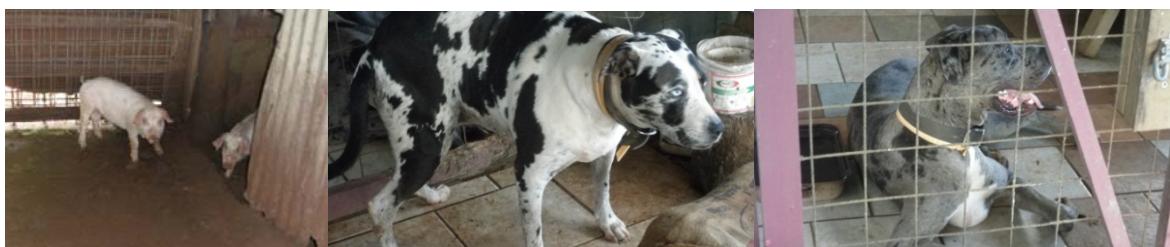
### (3) わかったこと

まず初めに**分別**についてです。オーストラリアでは、ビン・カン・プラスチック・ガラス・紙を一まとめにして大きなゴミ箱に入れていました。日本のように細かくは分別していませんでした。しかし、カン、ペットボトルは、日本と同じ様に回収してリサイクルされるそうです。

次に**処理**の仕方についてです。残飯や生ごみは、庭に穴を掘って埋めるそうです。庭に埋めると土に返り肥料になるそうです。

私のファームステイ先の家には、豚や犬、鳥などがいたので、食べ残しは動物たちのえさになっていました。

オーストラリアには、複数の埋め立て地があり、ごみ収集車が1週間に1回は収集していくそうです。リサイクルできるものはリサイクルして、埋め立て地では種類ごとに埋め立てるそうです。しかし乾電池等を燃えるごみに入れてしまう人が多いため、土に返らないものまで埋め立ててしまうそうです。



生ごみを食べる豚

このように日本とオーストラリアを比較してみると、日本のほうがゴミの分別に対して、意識が高いと思いました。しかし、自然を維持していくための環境保護については、オーストラリアのほうが非常に意識が高いと感じました。

ケアンズ市内に行った時は、世界遺産も多い観光地であるせいか、建物の中が過剰冷房のような気もしました。

私は、研修中に感じたこのような気持ちを大事にして、これからも環境に対して敏感になり、生活していきたいと思いました。



オーストラリアの分別

日本の分別



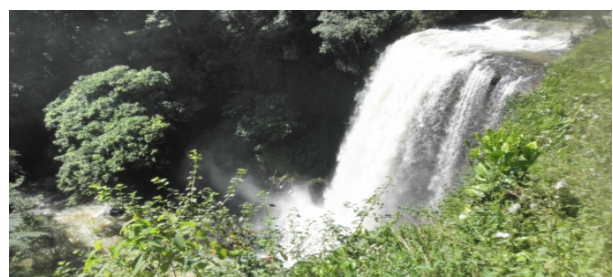
## ○ファームステイ先でのエピソード

私のファームステイ先は、Voss さんという方のお宅でした。Hanz さんと Marita さん夫婦の2人暮らしでした。広い敷地の中に家があり、豊富な種類のフルーツや植物、たくさんのペット(犬、豚、鳥、バッファロー)を育てていました。



室内プール

Hanz さん、Marita さんは、私たちをいろいろなところに連れて行ってくださいました。millaa millaa falls, zillie falls, ellinjaa falls のたくさんの滝やチーズ工場(GALLO)、湖、カーテンツリーも見せてもらいました。そして、町まで連れて行ってもらい、お土産を買ったり、とても楽しく充実した、英語での会話も弾んだ毎日でした。



ファームステイ先のまわりには、家や建物がほとんど無く、360°どこを見渡しても、農場が広がっていました。



食べ物は、思っていたより食べることができ、おいしく頂きました。

朝は主に、トーストにハム、チーズ、トマトをのせて食べました。緑茶も必ず出ました。

昼食は、私たちで、持って行ったもちを料理しました。「おいしい」と日本語で言ってくれました。最後の昼食は、湖で肉やドライフルーツ、パイナップル、パパイア等のフルーツを食べました。余った肉や食べ終わった肉の骨は、犬たちにあげるそうです。

夕食には、スパゲッティや肉じゃが、豆などが出ました。どの料理もすごくおいしくて、おかわりをしました。一番おいしかったのは肉じゃがでした。

そしてこの3食だけではなく、afternoon tea と言って、日本で言うおやつの時間があり、Marita さんの手作りケーキを食べました。とてもおいしかったです。



私は、日本からそうめんも持って行きました。「いなりずし」ではなく「いなりそうめん」と普通のそうめんを作りました。水をあまり使えないので少し作りにくい部分もありましたが、とても喜んでくれました。

「そうめんのつゆには、何が入っているの？ 天かすは、イカの味がするけど何？」等たくさん質問してくれて、日本の食べ物について教えてあげることができました。



とても気に入った様子で、朝食べ切れなかった分は、「お昼にも食べよう！」と言ってくださいました。とても嬉しかったです。大好評だったので、「作って良かったなあ」と思いました。

## ○グリーン島でのエピソード

世界遺産である「グレートバリアリーフ」に浮かぶグリーン島に行きました。

海の底が見えるグラスボトムボートに乗り、サンゴや魚、そして海ガメも見してきました。美しいサンゴや種類豊富な魚、大きな海ガメにびっくりしました。いつまでもこの美しいままの世界遺産であってほしいです。



## ○キュランダでのエピソード

最終日、あの「世界の車窓から」で有名なキュランダ鉄道に  
乗りました。楽しかったです。



そして、先住民の「アボリジニ」のショーやブーメラン投げなどを見てきました。  
ディジュリドゥと言う楽器の音に合わせて、踊っていました。ディジュリドゥは、ア  
リがその中心部を食べ終わった長い木を使った楽器だそうです。この楽器で、オオカミ  
の鳴き声等も披露してくれました。



## ◎研修を終えて

私は今回の研修で、オーストラリアと日本のゴミの分別の仕方や、処理方法の違いを  
学ぶことができました。また、自分の英語力についても知ることができ、研修に参加し  
て良かったと思いました。「伝えたい」という気持ちがあれば、話したことは相手にし  
っかり伝わると思います。

これからの生活の中で、研修で学んだことを生かし、外国の方と交流する機会があつ  
たら、進んで話しかけたいと思います。

# オーストラリアで学んだこと

No.18 仙北中学校 高橋亜里沙

## \* はじめに \*

1月3日から10日までの8日間、海外派遣事業の研修としてオーストラリアに行ってきました。私にとって初めての海外でした。私は、小学校から英語を習っていて、小さい頃から外国に興味がありました。最初は緊張しましたが、とても貴重な体験をすることができました。

## マンガリーフォールズでは

マンガリーフォールズでは、日本ではできない様な経験がたくさんできました。一番貴重な体験は、家族と離れて、英語だけで生活したことです。ちゃんと英語が話せるかどうか不安でしたが、マンガリーフォールズには日本人スタッフがいて少し安心しました。ここで一番心に残っていることは、オージーキッズとの交流です。オーストラリアの中学生は積極的で、緊張している私に『How old are you ?』・『What season do you like ?』など、進んで話しかけてくれました。とても嬉しかったです。



## ファームステイでは

一番楽しみだったファームステイでは、日本とはまったく違う生活スタイル・食文化を体験することができました。日本の家庭と違うところは、

### ① 食事

朝食はコーンフレークやシリアル。

昼食はピザなど、夕食はステーキなど（肉中心）

日本食のヘルシーさが改めて分かりました。

### ② 節水

オーストラリアでは、水不足のため水がとても大切にされていました。そのため、お風呂が5分以内と制限されていました。

### ③ 自然

自然豊かで、家は川や草原に囲まれ、カンガルーやワラビーなどがいました。

### ④ 裸足

スーパーマーケットでも外でも、裸足の人が多くいたので驚きました。

ホストファミリーは私に優しく接してくれ、とても嬉しかったです。 ★ 本当にお世話になりました★

『Thank you very much』



## 日本の自然環境を守るにはどうすべきか

### \* テーマ設定の理由 \*

**地球温暖化**が世界で問題になっているなか、「オーストラリアではどのような対策を立てているのか。ECO に対してどのような取り組みをしているのか。」を調べたいと思いました。

### \* 調べた内容 \*

①エコバッグは使っているのか

使っていませんでした。オーストラリアの人たちは、みんなスーパーでもらうことができる袋を使っていました。

②どのようなものをリサイクルしているのか

アルミ缶・ペットボトル・ビン・古新聞などをリサイクルしています。

リサイクルボックス



③各家庭での工夫は何か

節水（入浴時間が5分以内など）

オーストラリアのお風呂 →



## 海外研修を終えて

私にとって、オーストラリアに行くことは初めてのことで、最初は期待よりも不安の方が大きかったけれども、オーストラリアで過ごしているうちに、「いいところだなあ。」と思いました。オージーキッズとの交流やグリーン島観光など、普段日本ではできないような貴重な体験をすることができました。オーストラリアの人たちとたくさん話してみて、私の英語は完璧ではなかったと思うけれど、自分の思いや気持ちをしっかりもっていれば、ちゃんと相手に伝わるということを学びました。今回学んだことを自分のこれからの生活や将来に活かしていきたいと思います。最後にこの研修を通して私を支えてくれた方々に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

# オーストラリアでの貴重な7日間

No.19 仙北中学校 町田沙南

1月3日から10日まで、海外派遣事業の研修としてオーストラリアに行ってきました。初めての海外。多少の不安もありましたが、それでも海外への好奇心と期待のほうが大きく、私はこの8日間で、たくさんのすばらしい経験をすることができました。

## ～マンガリーフォールズにて～

オーストラリアについたのは深夜、しかも空港からさらに2時間ほどかけて最初に泊まるマンガリーフォールズへ。移動だけで疲れてしまいました。ですが、マンガリーに到着した私たちを出迎えてくれたのは、意外にも日本人のスタッフでした。とても緊張していたのですが、スタッフの皆さんの明るく元気な姿を見て、いっきに緊張がほぐれました。

ここでの一番の思い出は、現地の子供たち（オージーキッズ）との交流です。はじめのうちは、みんな緊張していて全然話すことができなかったのですが、少しずつ「What's your name?」などといった自己紹介や会話を楽しめるようになり、私にもなかよくなった女の子がいます。海外に知り合いがいるということは、この研修に行



かなければ、起こらなかったことだと思います（今でもたまに信じられないような気持ちになります）。

## ～ファームステイにて～

私が今回一番楽しみにしていたのは、ファームステイです。楽しみの反面とても緊張していましたが、迎えに来てくれたお父さんが明るい人で、車に乗っている間ずっとおしゃべりをしました。私の片言の英語はどうにか通じたようでしたが、本物の英語は、やはりわからないものが多かったです。

ファームステイ先には小さいお子さんがいて、はじめ私たちは警戒されていました。でも、折り紙でリボンや鶴などを折って一緒に遊んでいるうちに、だいぶなついてくれたのでうれしかったです。（2人とも小さくてとてもかわいい子たちでした。）また、ファームステイ先ではバッファロー（水牛）を飼っていて、普通の牛とは違いとても角が大きかったです。

食事も日本とは全く違うものでした。たとえば

朝・・・シリアルとトースト

昼・・・サンドイッチ

夜・・・手作りパンとバッファロー肉と野菜サラダ

飲み物・・・いろいろな種類のフルーツジュースがありました

このように日本とは異なる食文化でした。牛肉は毎日でてきました。日本にいと、牛肉より豚肉のほうが食卓に並ぶ機会が多いので新鮮でした。私はパンも大好きなのですが、やはり日本人、お米が恋しくなりました。

ホストファミリーと過ごした3日間は、とても楽しく、本場の英語に触れることができたので勉強になりました。ホストファミリーのみなさんには感謝しても、し足りないほどです。みなさん

**Thank you very much!!**

## ～自主研究テーマ～

私のテーマは

「自然環境を保護するためにはどのような工夫が必要だろうか？」  
です。オーストラリアは自然や動物など環境が素晴らしいことで有名です。私は、実際現地に行ってみて、「本当にそのとおりだなあ。」と感じました。オーストラリアの道路には日本のようにゴミがポイ捨てされていませんでした。「このような、細かいけれど大切なこと、難しいことを一つ一つ積み重ねていけたら、自分もみんなも気持ち良く毎日を送れるのではないか。」「ゴミを減らすことで環境も良くなるのではないか。」と私は思います。これからの生活では、今までよりもっともっと環境や自然のことを考えたいと思います。

オーストラリアに研修に行くことができ本当によかったと思います。私はこの体験を絶対に忘れません。

# オーストラリアで学んだこと

No. 20 太田中学校 田口 ありさ

## 1. はじめに

私は、以前から英語に大変興味があったので、この海外研修に応募しました。英語は世界共通語で、日本語にはない発音（t h等）をもっていることに興味がありました。また、日本人が英語をきれいに発音して話している姿に強い憧れを感じていました。

私がこの海外派遣事業の存在を知ったのは、昨年、中学1年生のときでした。同じ部活動の先輩がオーストラリアへ行ったことがきっかけでした。先輩の思い出話を聞くうち、私はいつの間にか不思議と、「来年は私が行くのだ」と思っていました。

## 2. テーマ設定の理由

私のテーマは、「大仙をより美しい街にするにはどうするべきか？」です。学校の総合的な学習の時間のテーマが「環境について」だったので、そのことについてより深く考え、学ぶために、このテーマを設定しました。また、私の住んでいる太田は、とても自然の美しい地域です。その太田が、これからも美しい地域であり続けるために、自分には何ができるのか、何をすべきなのかを、この機会に考えたいという思いを抱いて海外派遣に臨みました。

## 3. テーマ（環境保全）について

### (1) ファームステイ先で見つけた日本にはない環境保全方法

- ・コンセントにスイッチがついている
- ・節電を呼びかけるシールを貼っている
- ・台所用洗剤をあまり使わない
- ・生ゴミを肥料にする
- ・極力家で採れた物を食べる
- ・日中は照明をつけない（できるだけ）
- ・外食（バーベキュー）にはプラスチックの食器を使う

などがありました。特に「コンセントにスイッチ」は、私が行った所ほとんどにありました。

私の両親は電気工事士なので、帰国後に聞いたところ、スイッチをつけることでかなりの節電になるそうです。改めてオーストラリアの節電意識の高さを実感しました。

また、日本では紙皿や割り箸など、使い捨ての食器を持って野外での食事に出かけることがあります。しかしオーストラリアの野外の食事では、プラスチックでできた使いまわせる食器を使い、ごみを極力減らすよう努力していました。しかも、それが「あたりまえ」になっていることに驚き、感心しました。

街や観光地では、「リサイクル ミー」と書かれたポスターがゴミ箱の近くに貼ってあったり、環境についてのポスターが貼ってあったりと、様々な所で環境保全の意識向上を目的としたポスターが目立ちました。



## (2) オーストラリア人の「水」に対する意識

私は、何回かの事前学習で、「オーストラリアは水不足」と聞いていたので、ホストファミリーや、マンガリーフォールズのロッジのスタッフの方に、二つの質問をしました。

Q 1) この地域では、水不足に悩むことはありますか？

この質問に対しての答えは、予想に反して「No」でした。彼らによると、私たちの行った地域は比較的降水量が多く、水には困らないのだそうです。しかし、内陸部はやはり降水量が少なく、水不足に悩んでいる地域も少なくないそうです。

Q 2) 節水のために、なにか心がけていることはありますか？

残念ながら、ファームステイ先では何もしていないそうです。しかしホストファミリーの入浴時間は10分程度と短く、やはり日本に比べると水の使用量は少ないと考えられました。また、マンガリーフォールズのロッジでは、積極的に節水と呼びかけているそうです。

今回の調査で初めて知ったこともありました。それは、この地域では飲み水を定期的に6リットル程のボトルで買っているということです。水道水とは別に飲み水を買っていることに、とても驚きました。



## (3) その他

たくさんの環境保全方法を見つけるなかで、逆に、日本の方が環境にいいのでは？と思うこともありました。例えば、オーストラリアでは風呂に入る際、一人一人お湯をはりかえ、大量のお湯を使います。しかし日本では、残り湯を捨てずに洗濯に使うなど、水を使い回す家庭もあります。また、オーストラリアは、その広大な土地のためか、車移動が多く、CO2排出量が多くなってしまいます。それに比べると、日本は比較的、自転車や徒歩で移動している人が多いと感じました。また日本では、ハイブリッドカーなど、CO2を削減しようと様々な開発が進められています。しかし、オーストラリアではガソリンが安く、あまり燃費を気にせず運転できるので、比較的CO2排出量の多い古い年式の車が多いように感じました。これらのことから、交通に関しては日本の方が環境にいい状態を保っていると考えられます。

## 4. テーマのまとめ

私はこのテーマについて調べてみて、大仙を美しい街にするための方法として一番有効なのは、市民一人一人の環境保全への意識向上なのではないかと感じました。

なぜなら、オーストラリアで暮らす人々には、向上意識はあっても、だれかに強要されている感じは全くありません。きっとそれは、そうすることがあたりまえになっているからだだと思います。私たちも、「言われたからやる」などと重い気持ちから取り組み始めるのではなく、「やれば街がきれいになる」「やれば自分に返ってくる」そういう気持ちをもって、いつかそれがあたりまえになるまで継続していく、といった考え方で始めていけばいいのではないかと思います。また、私自身、今回の海外研修で、環境保全についてたくさんのことを学ぶことができました。今後の生活に、オーストラリアと日本、両国のいいところを積極的に取り入れていきたいと考えています。

## 5. オーストラリアでの思い出

### (1) オーストラリアに到着するまで

私がこの事業に応募した理由は、実はもうひとつあります。それは、人見知りの克服です。私は人と接することが不得意で、この機会に成長したいと思ったことも、応募する動機となりました。

同じ学校の友人がおらず、心細い思いをしていたとき、初めに親しくしてくれたのは、同じホームステイ先のメンバーでした。それをきっかけに、ほかの派遣生とも気軽に話せるようになり、充実感にも似た喜びを感じました。彼女たちに後で話を聞いたところ、皆、私のことを気難しそうな人だと思っていたようです。きっと私は、緊張のあまり暗い顔をしていたのでしょう。自分の思わぬ欠点を見つけることができました。欠点に気づくきっかけをもらったことが嬉しかったのと同時に、改めて、笑顔とコミュニケーションの大切さを実感した出来事でした。



大仙市役所から仙台空港へ。徐々に減っていく雪の量に、私は、少しずつではありましたが、南へと進んでいる実感をもちつつありました。それが確信に変わったのが、乗り換えのグアムに降り立ったときでした。季節が逆になるということ、頭では理解していましたが、秋田では感じたことのない蒸し暑い空気が、海外派遣への期待をより一層高めてくれるように思いました。そして、ついにオーストラリアに到着し、バスに乗車しました。ふと窓から夜空を見たとき、その星の多さと明るさにとても驚きました。これからこんな大自然の中で生活できるのだと思うと胸が躍り、寝るのが遅くなってしまいました。

### (2) オーストラリアの自然

マンガリーフォールズでは、自然散策や、ナイトハイクへ行き、自然を間近で観察する機会が多くありました。自然散策では、スタッフの泰斗さんがガイドをしてくださいました。日本にはない植物がたくさんありましたが、特に驚いたのが、紫外線除けの葉の赤い植物です。オーストラリアの強い紫外線に耐えるために進化したのだそうです。



ナイトハイクでは、ツチボタルを見に行きました。真っ暗でこぼこした道を明かり無しで歩いていくのは少し怖かったです。けれども、目を開けた瞬間、いくつもの美しい光が見え、そのことにとても感動しました。しかし、ツチボタルは世界中で3か国、しかも限られた地域でしか見ることができず、光を当てると、もう光らなくなると言います。私たち人間には、そんな小さな命を守る義務があるのだと感じました。また、ロッジに戻る際、泰斗さんが教えてくださったことが印象に残っています。泰斗さんは、「皆さんにはツチボタルの光が何色に見えましたか？」と質問しました。私には黄緑色に見えたので、隣にいた友達に「黄緑じゃなかった？」と聞きました。しかし彼女に、「私には青白く見えたよ。」と言われたので、不思議に思いました。すると泰斗さんは、「青白く見えた人は人間らしい目を、黄緑色に見えた人は野性的な目をしていると言わ

れています。」と教えてくれました。私は、色彩でさえも感じ方が十人十色であることに、とても驚きました。

6日目にはグリーン島へ行きました。そこで私は、シュノーケリングを楽しみました。シュノーケルと水中めがね、足ひれを持ち、意気揚々とビーチに出た私は息をのみました。なぜならそこには、真っ白な砂と、青く透きとおった海が一面に広がっていたからです。なんてきれいな海だろうと思いました。海に入ると、水底にサンゴ礁が見えました。サンゴ礁には、大小色とりどりの魚たちが泳いでいました。しかし残念なことに、サンゴの中には、白化が始まっているものも少なからずあり、改めて地球温暖化を感じずにはいられませんでした。



### (3) ファームステイでの思い出

私がファームステイに行ったのは、ピークさんというバッファロー農家でした。3泊4日のステイでは、湖に連れて行ってもらったり、家の手伝いをしたりと、色々な体験をすることができました。中でも印象に残っているのは、湖に行った時のことです。湖にはホストファミリーと、その友人家族と一緒にきました。みんなでバーベキューをした後、子供たちとクリケットをしました。言葉では通じ合えないことも多々ありましたが、スポーツを通してとても仲良くなることができました。子供たちの笑顔を見ることができたときは、とても嬉しかったです。



ホストファミリーとの別れの日、長女のリアが涙目でお別れのハグをしてくれたときは、「もう少しここにいたい」と思いました。私にとってこの3泊4日は、そのように思うほど楽しく、有意義な時間でした。

## 6. 海外研修を終えて

今回の海外研修では本当にたくさんのお話を学ぶことができました。普段何気なく受けていた各教科の学習の内容は、いろいろな場面で役に立つことを実感しました。特に自分の英語がどこまで通じるかを知ることができたことは一つの収穫です。今後の学習の励みになりました。また、今一番興味をもっている環境についても見直すことができました。そして何より、様々なひとたちとの交流により、内面的に成長することができたと思います。今回かかわったひとたちが、自分に自信をもち、何事にも積極的なひとたちが多かったからです。私も今まで以上に、何事にも積極的に取り組みたいと思うようになりました。

違う人種の私たちと彼ら。髪の色も違えば、話す言葉も違います。しかし、私たちは何かひとつだけ共通するものがあれば、分かり合えるし、笑顔になれる。今回の海外研修に行ったことで、改めてそう感じることができ、充実した7泊8日を送ることができました。

今回参加できたことを、家族や先生方、背中を押してくれた友人たち、たくさんの方々に感謝したいと思います。そして、この研修でかかわることができたひとたちのよいところを少しでも私のものにし、学習面でも生活面でも積極的に今後の生活に生かし、より充実した毎日を送っていきたいと思います。







大仙市教育委員会